

福井版LRTプロジェクトとまちづくり



都市自治体のモビリティに関する研究会

平成28年9月28日

福井市都市戦略部



福井鉄道とえちぜん鉄道

会社名	福井鉄道株式会社	えちぜん鉄道株式会社
営業路線延長	21.5km	53.0km
運行形態	福武線 軌道区間(3.4km) 鉄道区間(18.1km)	三国芦原線 鉄道区間(25.2km) 勝山永平寺線 鉄道区間(27.8km)
年間輸送人員 (H27年度実績)	198万人	345万人
使用車両	大型車両 : 3編成 低床車両 : 15編成 	大型車両 : 21編成 低床車両 : 2編成 (相互乗り入れ開始に合わせて導入) 

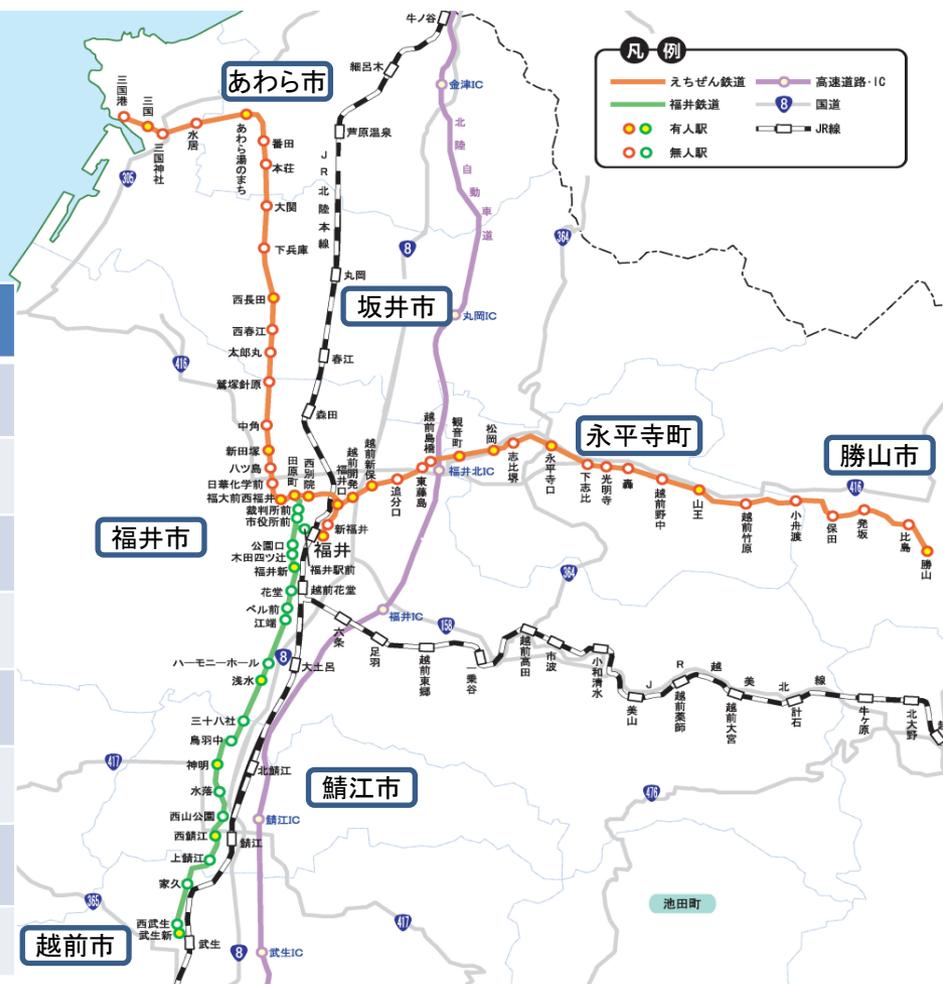
えちぜん鉄道沿線市町

福井市、勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町

福井鉄道沿線市町

福井市、鯖江市、越前市

	人口 (人)	面積 (km ²)
福井市	265,904	536.41
鯖江市	68,284	84.59
越前市	81,524	230.70
坂井市	90,280	209.67
あわら市	28,729	116.98
勝山市	24,125	253.88
永平寺町	19,883	94.43
合計	578,729	1526.66



(出典：総務省統計局 平成27年国勢調査結果)

本県における公共交通を取り巻く環境①

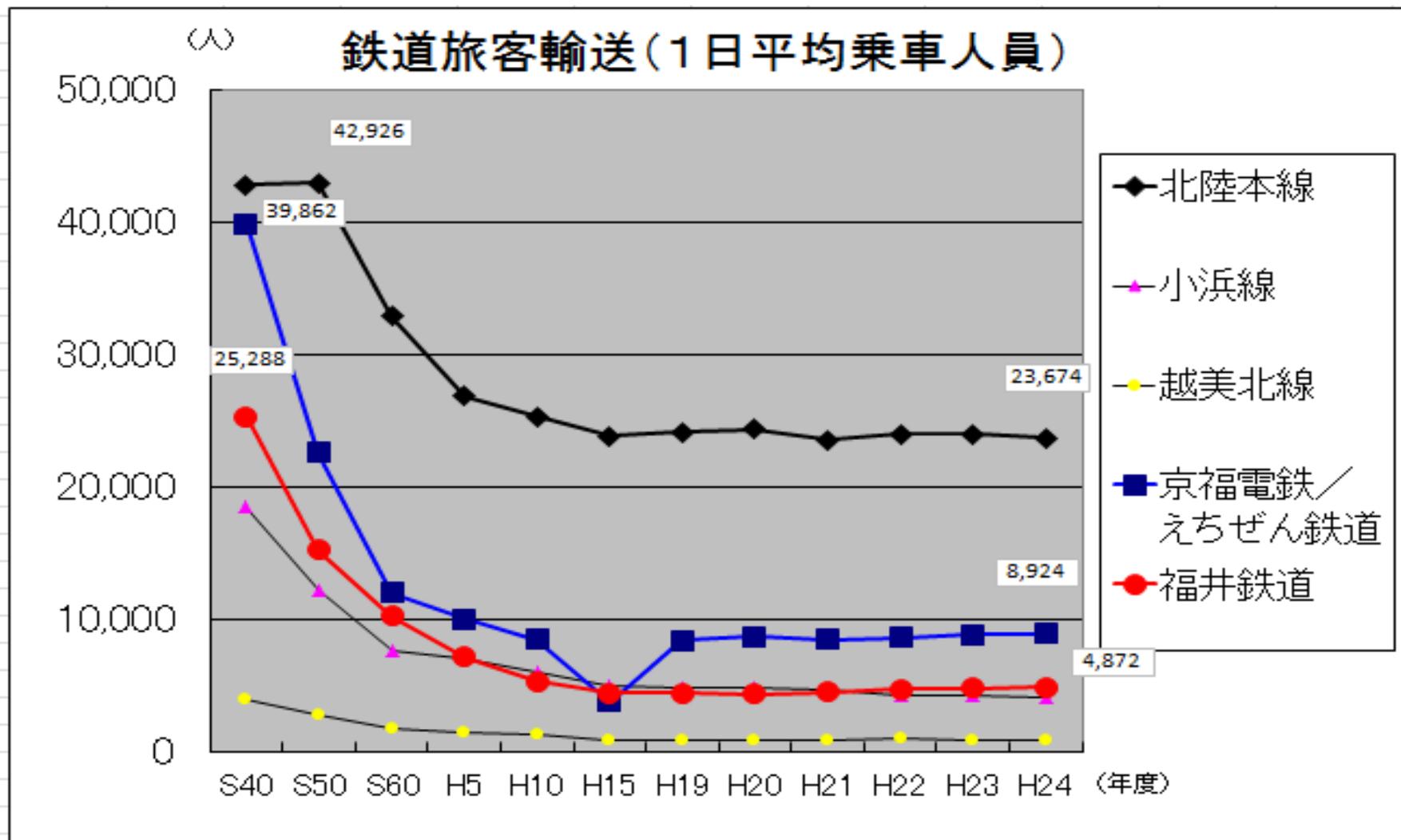
- ・ 県内の電車・路線バスの輸送人員は、この25年間でほぼ半減
（参考）昭和60年度：約12万人/日⇒ 平成23年度：約6万人/日）
- ・ 交通事業者別の1日当り利用者数の推移は次のとおり。いずれも減少傾向

（単位：人）

	S40	S50	S60	H5	H10	H15	H20	H23
北陸本線	42,800	42,926	32,892	26,895	25,322	23,882	24,354	24,019
小浜線	18,492	12,241	7,653	7,101	6,053	4,994	4,839	4,257
越美北線	3,989	2,803	1,783	1,452	1,274	942	923	950
京福電鉄／ えちぜん鉄道	39,862	22,591	11,995	10,060	8,526	3,789	8,704	8,860
福井鉄道	25,288	15,251	10,257	7,137	5,350	4,449	4,399	4,818
乗合バス	98,151	98,595	56,205	36,556	26,060	22,948	19,173	17,233
合計	228,582	194,407	120,785	89,201	72,585	61,004	62,392	60,137

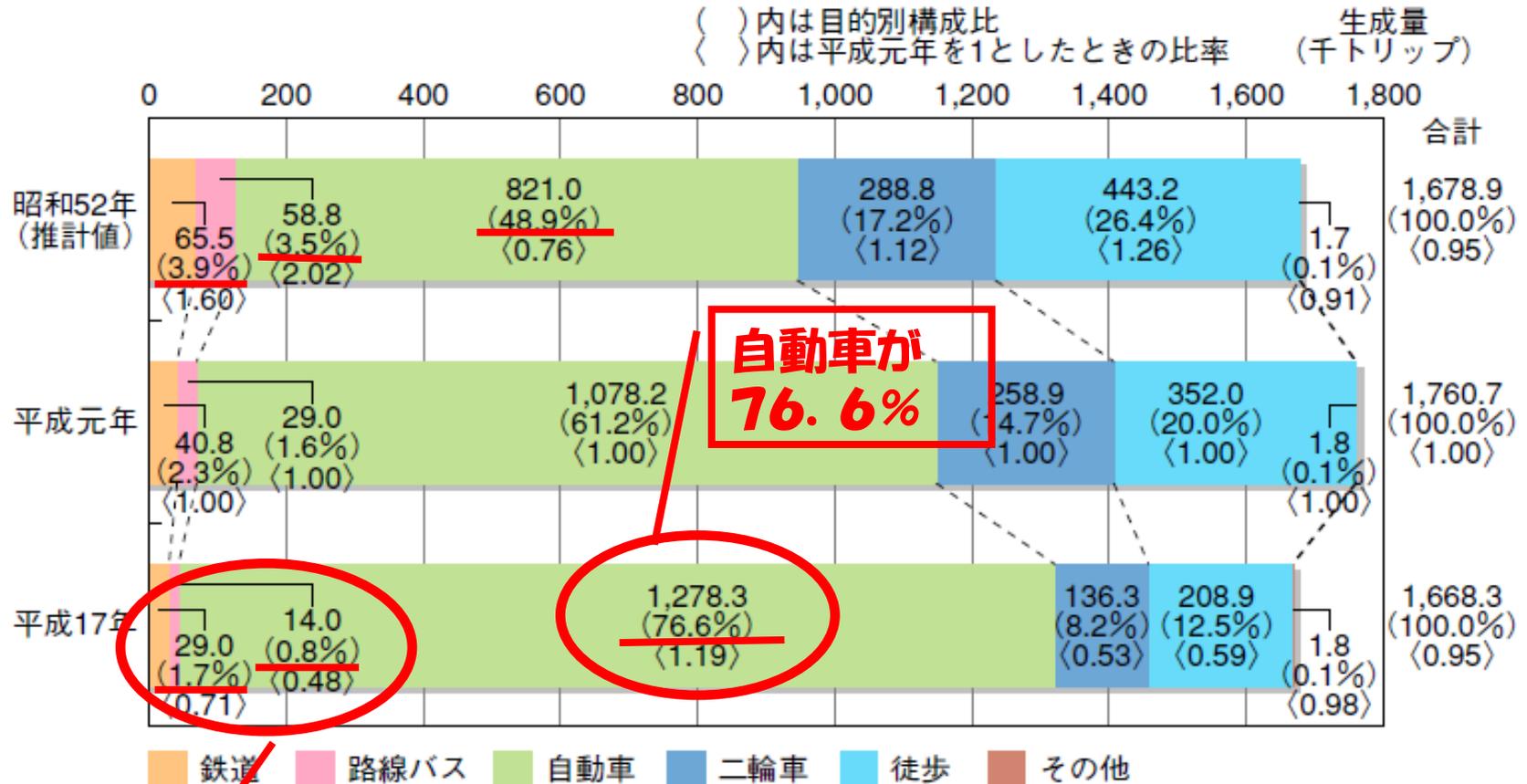
出典：「福井県統計年鑑」「数字でみる中部の運輸」をベースに日あたりで換算

鉄道輸送人員 ピーク時 昭和40年頃に比べて平成24年度では、
 JR北陸本線 55%、えちぜん鉄道 22%、福井鉄道 19%
 自動車との競争力の低い 地方鉄道の減少が著しい。



本県における公共交通を取り巻く環境②

- ・ 鉄道・バス利用者の割合は、全体の2.5%に減少。一方、自動車利用者の割合は76.6%まで増加



**自動車が
76.6%**

**バス・電車
は2.5%**

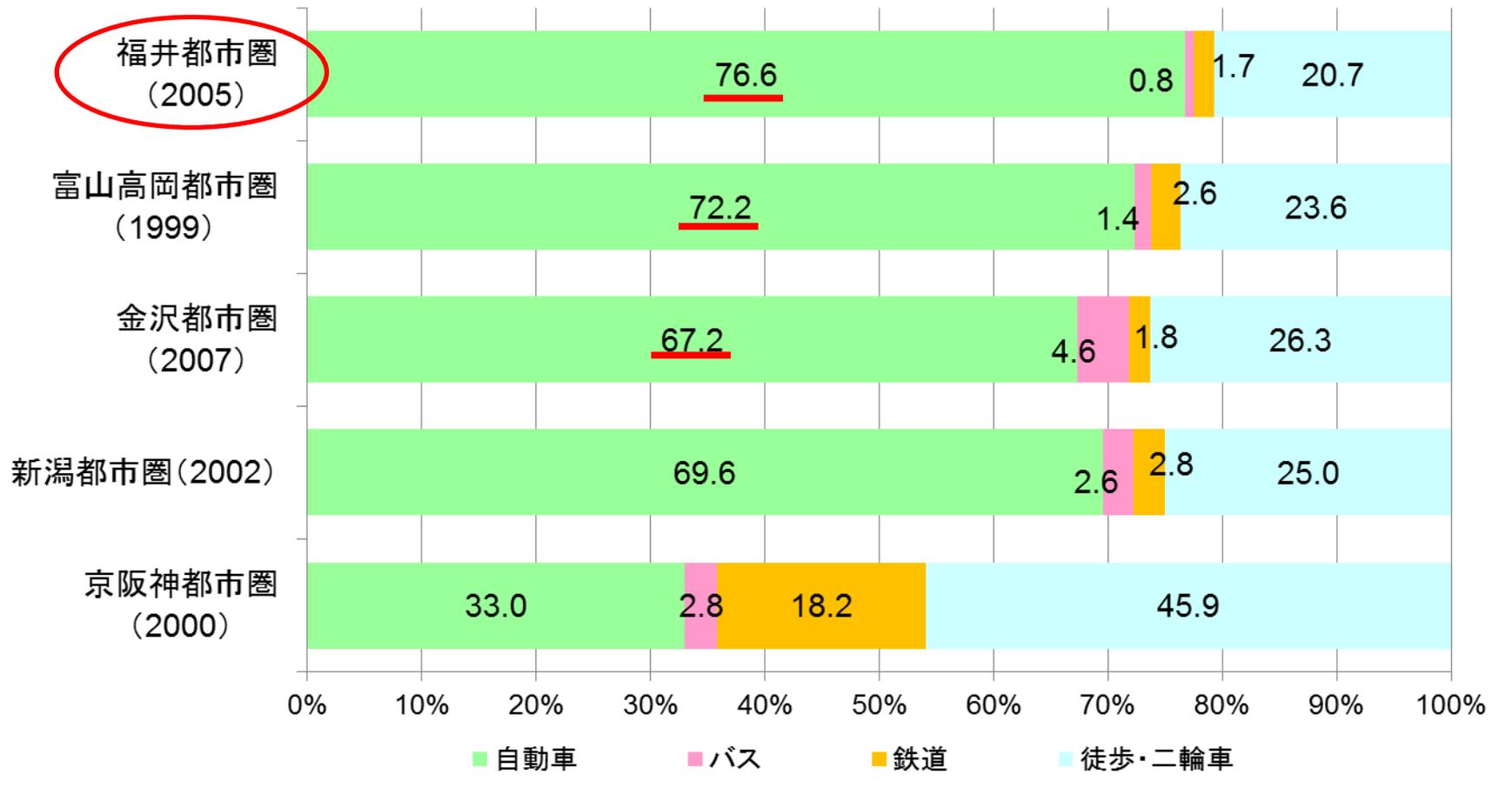
図4 代表交通手段別トリップ数の推移

出典：平成17年福井都市圏パーソントリップ調査結果

本県における公共交通を取り巻く環境③

- ・ 移動手段として自動車に依存する割合は、福井が金沢、富山よりも高い。

代表交通手段別交通分担率



出典：各都市圏パーソントリップ調査結果

本県における公共交通を取り巻く環境④

- ・ モータリゼーションの進展、市街地拡大により、人の移動先が福井駅周辺から郊外にシフト

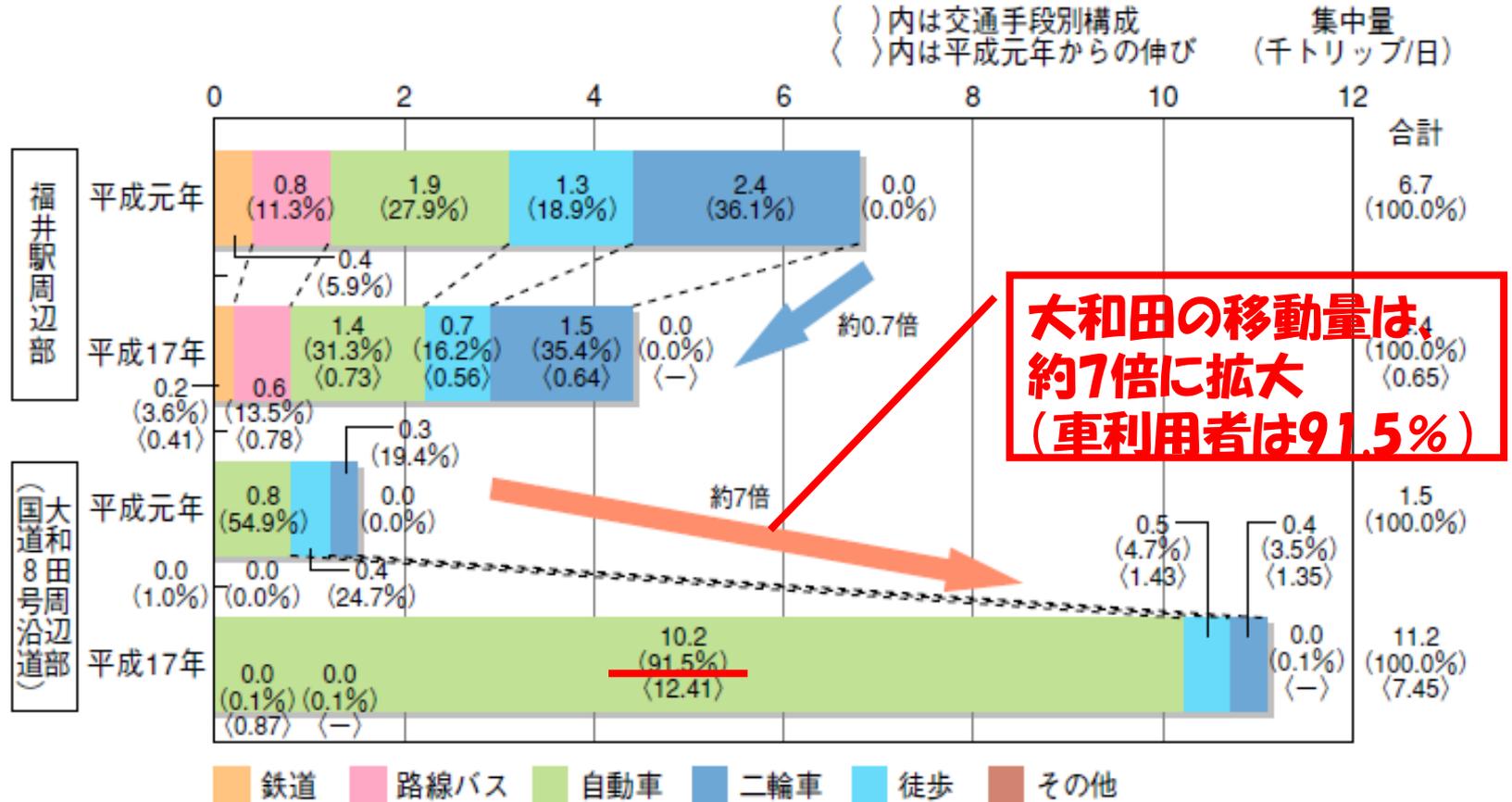


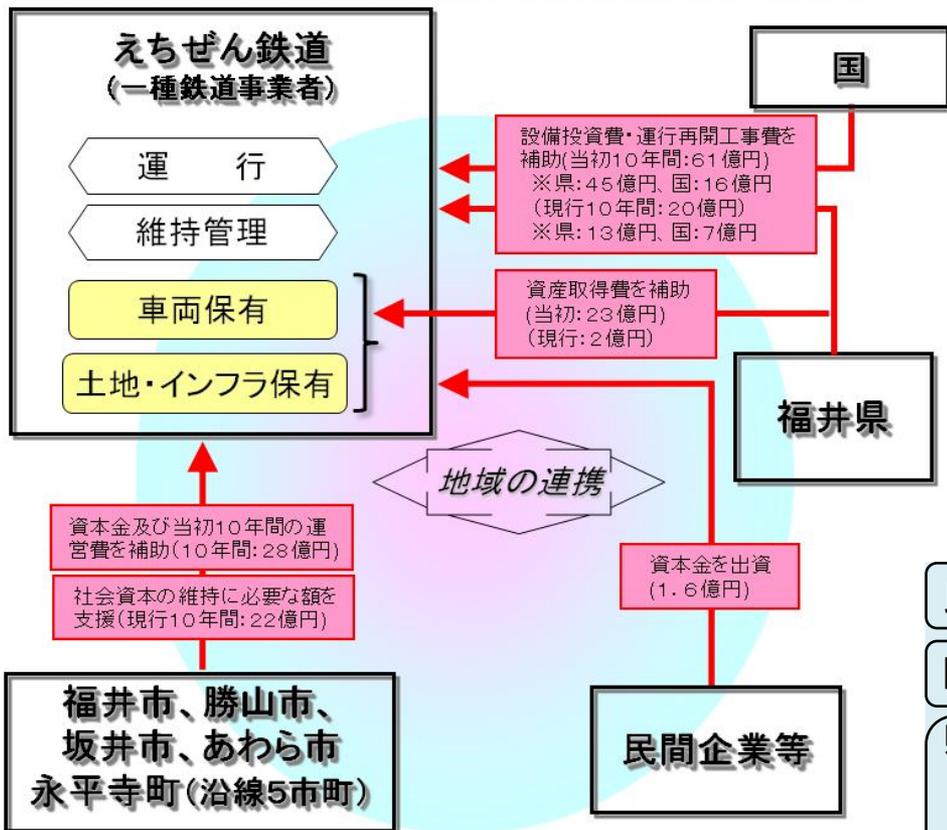
図22 買物目的での着トリップ数の推移

出典：平成17年福井都市圏パーソントリップ調査結果

えちぜん鉄道に対する支援

支援スキーム

(当初:10年間 平成14年度～23年度)
(現行:10年間 平成24年度～33年度)



— 沿革 —

- 平成12年12月 京福電車 衝突事故
- 平成13月 6月 " 2回目の衝突事故
- 7月 国が京福電鉄に対し「事業改善命令」
- 12月 県議会で鉄道存続に関する請願・陳情採択
- 平成14年 1月 知事と沿線市町村長の間で第三セクター方式による鉄道存続を決定
- 9月 えちぜん鉄道株式会社設立
- 平成15年 2月 京福電鉄からえちぜん鉄道に事業譲渡
- 7月 勝山永平寺線(福井～永平寺口)、三国芦原線(福井口～西長田)部分開業
- 8月 三国芦原線 全線開通
- 10月 全線開通
- 平成24年 2月 えちぜん鉄道活性化連携計画案を取りまとめ、24年度以降の10年間の支援に合意
- 3月 連携計画を国に送付

民間企業等・新鉄道会社資本金：1.6億円

国 ・設備投資補助：23億円

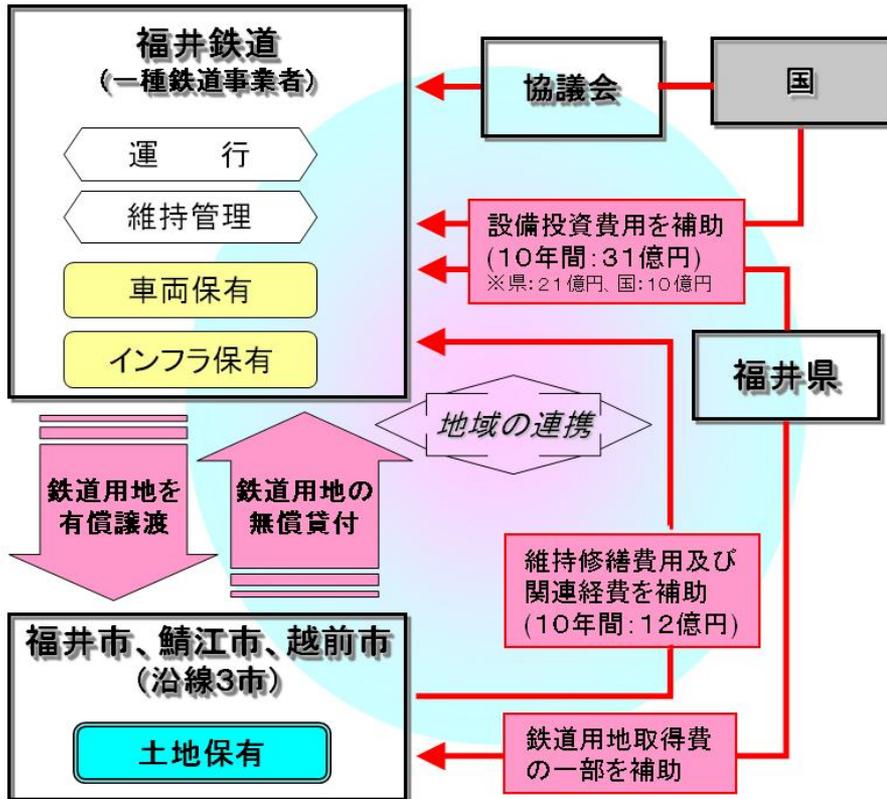
県 ・資産取得補助：25億円
・運行再開工事・設備投資補助
：58億円

沿線市町 ・資本金・運営費補助：50億円

《主要株主》 坂井市(17.4%) 勝山市(16.7%) 福井市(16.1%)
永平寺町(12.6%) あわら市(7.0%)

福井鉄道に対する支援

再構築事業実施スキーム (計画期間:10年間 平成21年3月~30年3月)



《主要株主》 まちづくり福井(株)(6.76%) 鯖江商工会議所(6.76%)
 武生商工会議所(5.41%) 福井鉄道福武線サポート団体
 協議会(福井市・鯖江市・越前市 各4.05%)

平成18年 平成17年度決算で、鉄道部門において、多額の減損損失を計上
 平成19年 自主的経営再建を断念 沿線自治体に支援を要請
 平成20年 県・沿線市、福井鉄道、名古屋鉄道、中部運輸局で構成される福井鉄道福武線協議会において支援スキームを策定
 名古屋鉄道が経営から撤退、新しい会社体制へ移行
 平成21年2月 鉄道事業再構築実施計画策定 (国土交通大臣認定)
 平成22年3月 新駅設置(スポーツ公園駅)
 平成23年3月 新駅設置(清明駅・泰澄の里駅)

※ 平成24年度の利用者数は178万人
 平成20年度以降増加傾向で推移している。

- 国
 - ・ 設備投資補助：10億円
- 県
 - ・ 設備投資補助：21億円
 - ・ 沿線3市鉄道用地取得費補助：8億円
- 沿線市：
 - ・ 維持修繕費補助：12億円
 - ・ 鉄道用地取得：12億円 (うち4億円が沿線市負担)

福井鉄道支援スキーム(平成20年)に基づくこれまでの取り組み

利用促進の取り組み

○利便性の向上による利用促進策

- ・新駅の設置
スポーツ公園駅(H22)、清明駅、泰澄の里駅(H23)
- ・駅施設の整備改善
駅舎、ホーム、トイレ、待合環境等の整備
- ・パークアンドライド駐車場整備
13駅 387台分を整備
- ・フィーダー交通の整備・充実
赤十字病院ヘシャトルバスを運行(赤十字前駅)
麻生津循環線バス、清明循環線バス
- ・えちぜん鉄道との連絡乗車券発売(H24)

○営業活動の充実・地域との連携強化

- ・企画乗車券の拡充
高齢者割引制度、商店街タイアップ割引サービス等
- ・企画列車の運行
ビア電車、居酒屋電車
- ・サポート団体などとの連携
サポート団体や地域などと連携してイベントを実施
- ・広報営業活動の充実
小学生対象の鉄道教室イベント、沿線ハイキング、
メール会員制度

えちぜん鉄道支援スキーム(平成14年)に基づくこれまでの取り組み

利用促進の取り組み

○利便性の向上による利用促進策

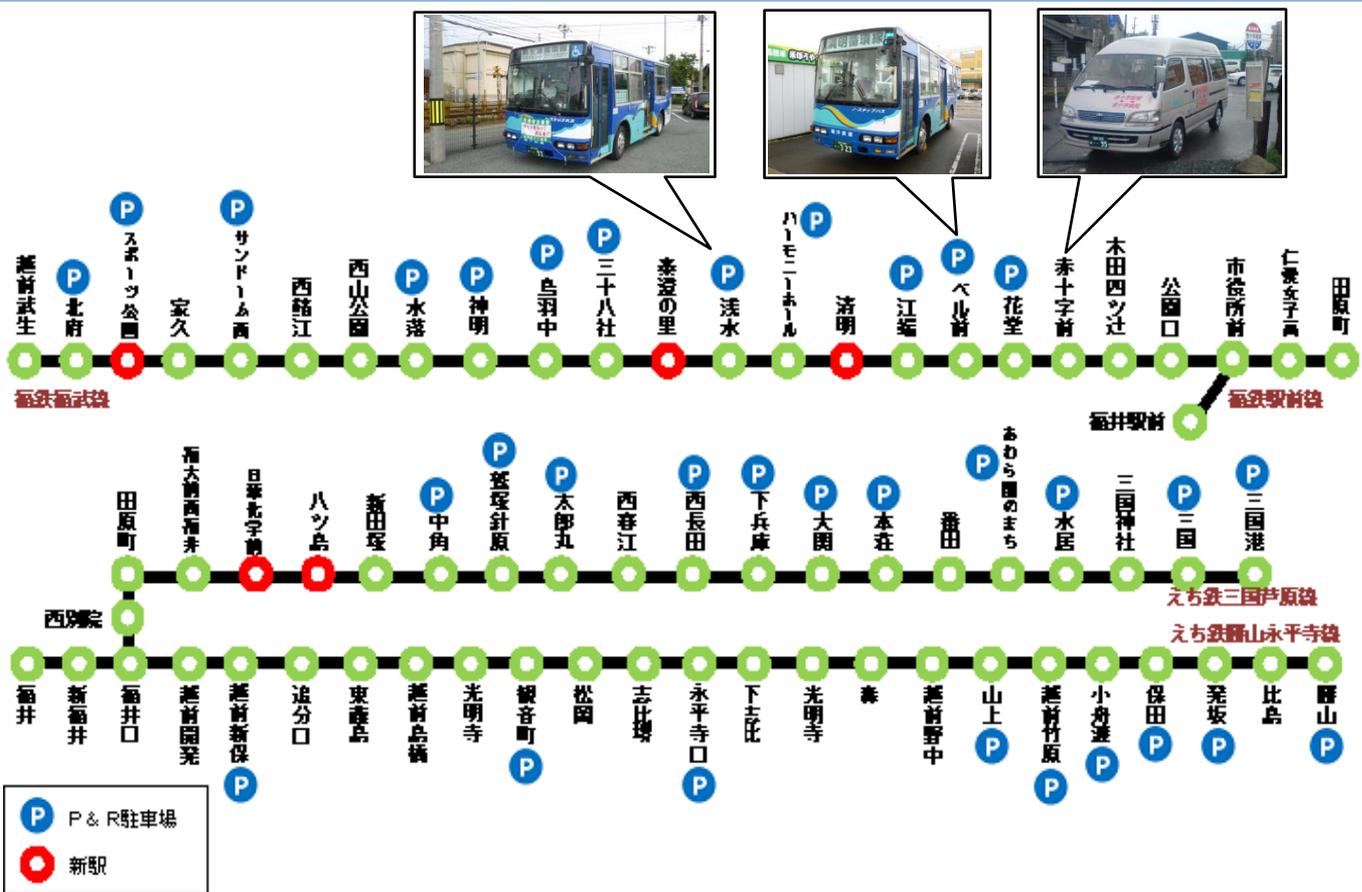
- ・新駅の設置
ハツ島駅、日華化学前駅(H19)
- ・駅施設の整備改善
駅舎、ホーム、トイレ、待合環境等の整備
- ・パークアンドライド駐車場整備
20駅 771台分を整備
- ・フィーダー交通の整備・充実
日新コミュニティーバス(ハツ島駅及び西福井駅接続)
恐竜博物館バス、市内観光バス(勝山市)
- ・福井鉄道との連絡乗車券発売(H24)

○営業活動の充実・地域との連携強化

- ・観光・地域活性化施策との連携
えちぜん鉄道限定の観光企画
(宿泊施設や観光施設と連携したサービス)
地域色を活かした企画
(オリジナルグッズの作成販売、沿線特産品の販売促進等)
企画列車の運行(ビア電、ハロウィン列車等)
- ・乗る運動・利用促進
自治体による利用促進(通勤・出張時の電車利用)
カーセーブデー運動の推進(運賃割引等)
こどもが電車に乗るきっかけづくり(遠足時の運賃補助等)
サポーターズクラブの強化(情報発信の強化、特典の拡大等)

交通・まちづくりの主要施策

① 鉄道の利便性向上



パーク&ライド駐車場整備

福井鉄道	13駅387台
えちぜん鉄道	20駅771台

- ### 新駅の設置
- 【平成19年度】日華化学前駅
八ツ島駅
 - 【平成21年度】スポーツ公園駅
 - 【平成22年度】泰澄の里駅
清明駅

- ### フィーダーバス
- 拠点駅に結節するフィーダーバスの運行により、鉄道利用の利便性を向上
- 麻生津循環線(H21. 8～)
 - 浅水駅と斜面住宅団地や農村集落を結ぶ循環路線(平日28便、土休日12便)
 - 清明循環線(H24. 10～)
 - ベル前駅と公共交通不便地域の住宅地等を結ぶ循環路線(平日17便、土休日12便)
 - 赤十字病院線(H22. 4～)
 - 赤十字前駅と赤十字病院を結ぶシャトルバス(平日34便)

福井鉄道・えちぜん鉄道の連絡運輸開始

相互乗り入れに先行して、平成24年10月1日より連絡乗車券の販売を開始。

- 「福鉄福武線」⇔「えち鉄三国芦原線」
普通、定期運賃を最大25%割引
- 「福鉄駅前線・福武線」⇔「えち鉄勝山永平寺線」
定期運賃を10パーセント割引



新駅の整備

えちぜん鉄道 三国芦原線の西別院駅と福井口駅の間に、新駅「まつもと町屋駅」を整備

まつもと町屋駅

平成27年9月27日開業

ホーム、上屋、スロープ、ベンチを整備

- ・交通空白地域の解消
- ・年間2万人の利用者増を見込む

(27年度 乗降実績 2.4万人)



福井鉄道 利用者推移

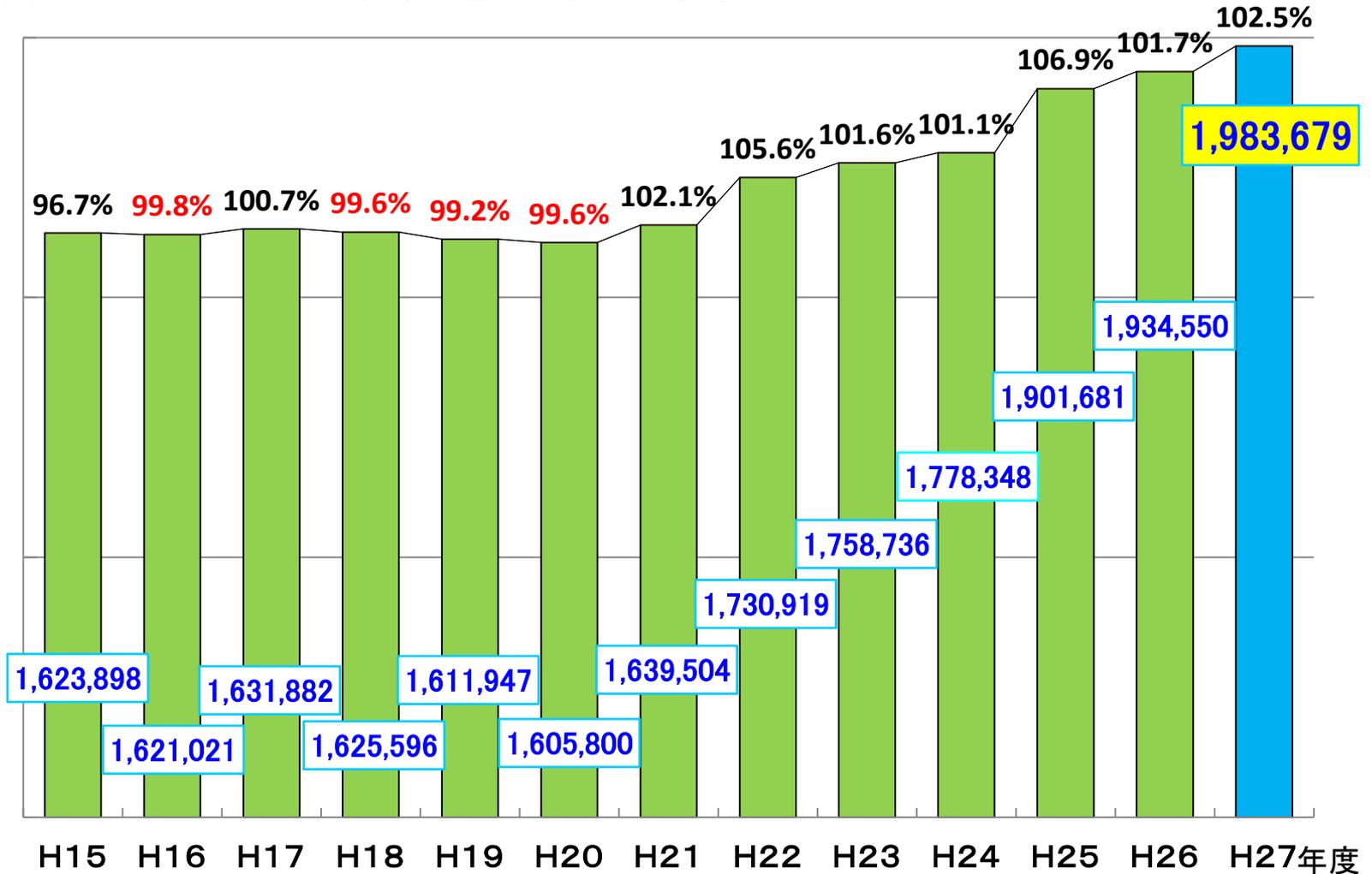
人

2,000,000

1,500,000

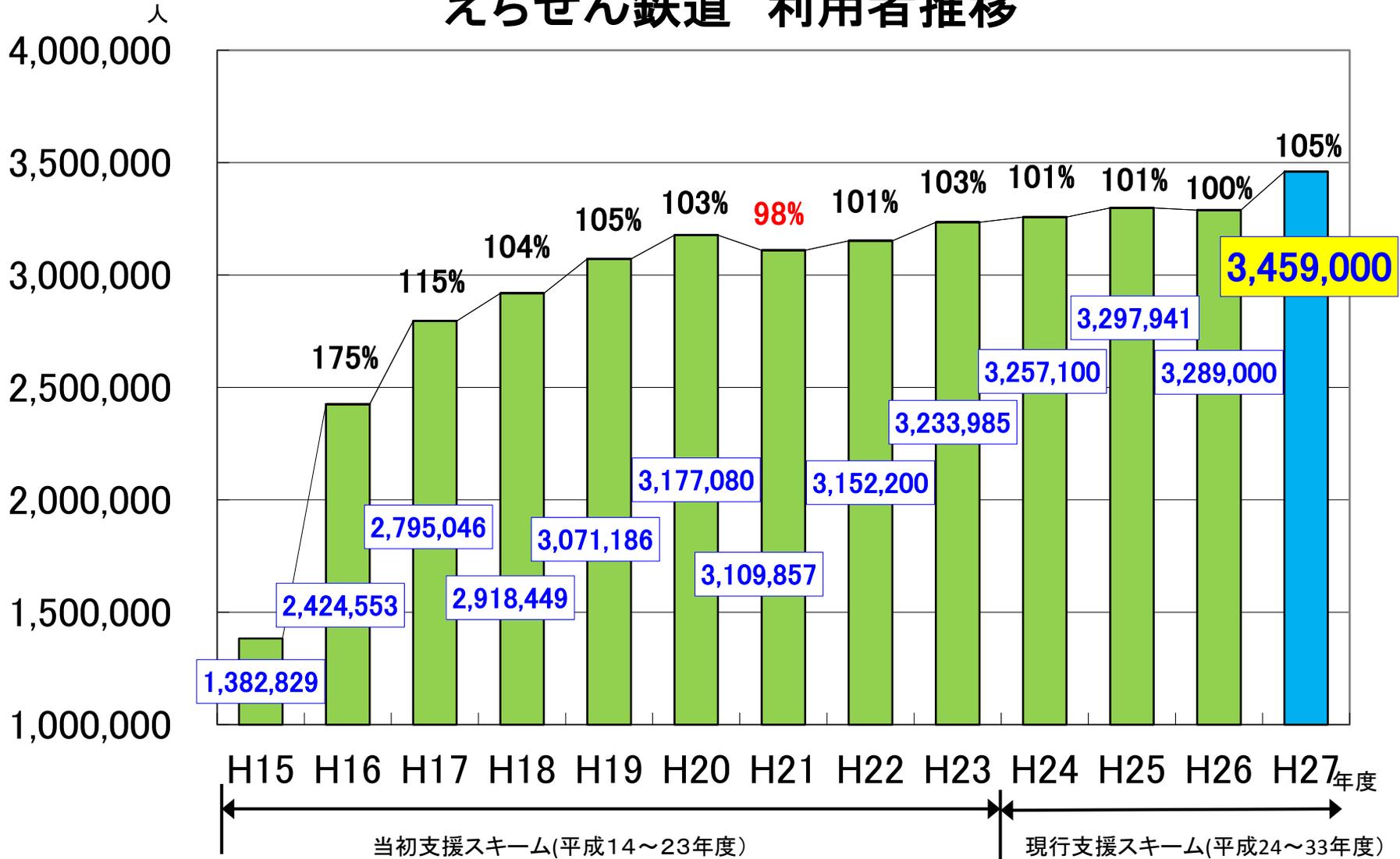
1,000,000

500,000



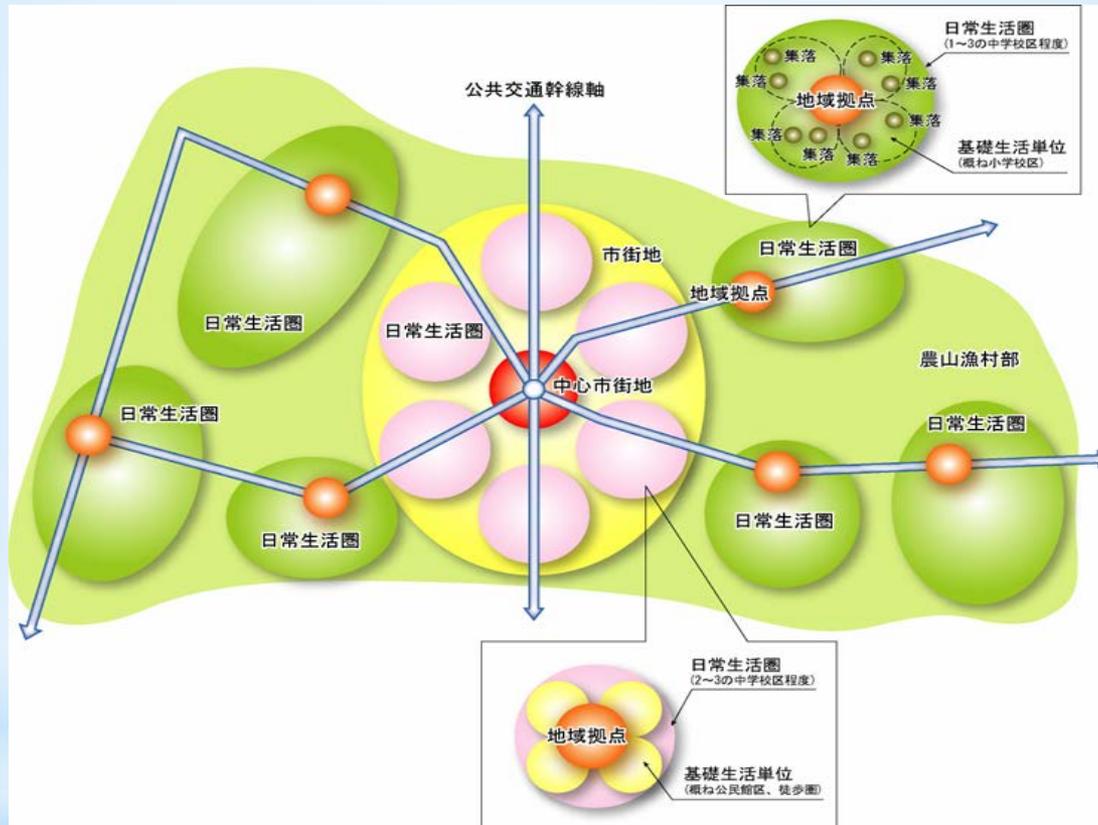
- ・平成21年2月の鉄道事業再構築実施計画認定以降、**利用者が1.2倍に増加**
- ・平成29年度に200万人の目標を設定

えちぜん鉄道 利用者推移



- 平成27年度は開業以来最高の346万人が利用

* 目指す都市づくりのイメージ



将来都市像

1. 自然環境との共生・調和を基本とした水と緑あふれる都市
2. 中心市街地と地域拠点が公共交通ネットワークにより有機的に結ばれた都市

「福井市都市交通戦略」＜基本方針・目標像＞（平成21年2月）

都市交通政策の基本方針

- ・ 福井都市圏における広域総合交通体系の構築
- ・ 公共交通を中心とする交通施策への転換
- ・ 地域バランスのとれた交通環境の構築

都市交通の目標像

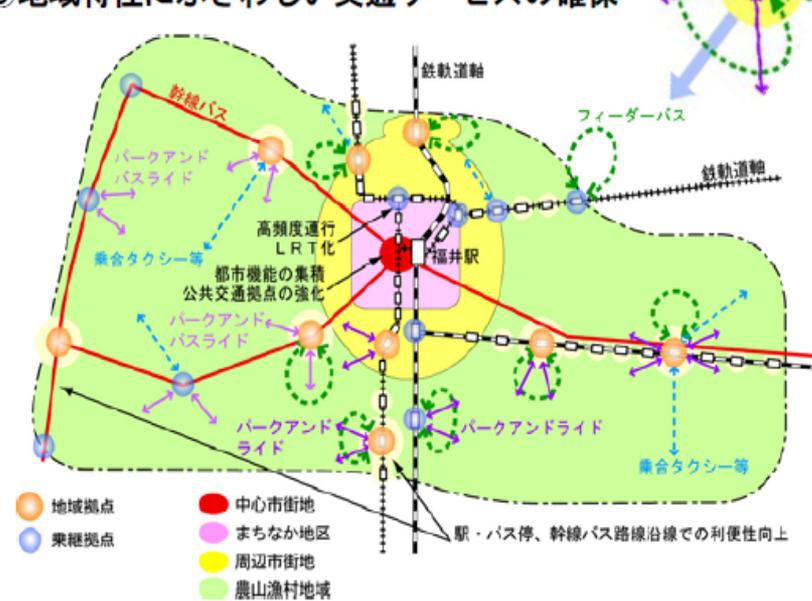
地域を軸と拠点でつなぐ
「全域交通ネットワーク」づくり



公共交通の目標像

既存ストックを活用した
福井型公共交通ネットワーク

- ① 6方向の公共交通幹線軸の強化
- ② 軸と地域を結ぶ拠点の形成
- ③ 地域特性にふさわしい交通サービスの確保



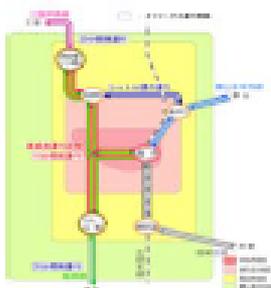
「福井市都市交通戦略」＜施策パッケージ＞

総力戦による施策展開

1.南北幹線軸としてのLRTの整備

・既存の鉄軌道ストックを活用したLRTの高頻度運行によって、高水準の公共交通サービスを提供する公共交通幹線軸の主軸を形成

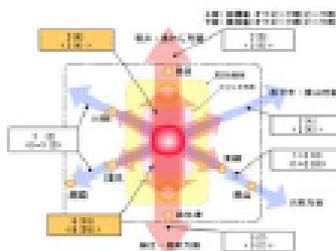
- 鉄軌道の整備
- 車両の更新
- 相互乗入の具体化
(運行形態、ダイヤ、料金等)



2.東西幹線軸となる幹線バス路線の整備

・東西方向に広がる市域への公共交通幹線軸として中心市街地と各地域拠点を連絡するバスサービスネットワークを形成

- 幹線バス路線の活性化
- フィーダーバス（地域バス）の検討・運行



3.交通結節の強化

・公共交通幹線軸と市域各地域を結節し、地域にふさわしいフィーダーサービス等と日常生活サービスの提供によって利用者の利便性を高める地域拠点、乗継拠点を形成

- 福井駅西口駅前広場へのバスターミナル機能の導入
- 地域拠点、乗継拠点の機能強化

○施策メニュー

- ・フィーダーバス
- ・地域バス
- ・バスロケーションシステム
- ・パーク＆ライド駐車場
- ・サイクル＆ライド駐車場 等

4.電車・バスのICT化

・公共交通の利便性を高めるため、ICカードの導入や総合情報案内サービスを提供

- ICカード導入の検討
- バスロケーションシステム拡充
- 電車総合情報システム導入



5.モビリティ・マネジメントの推進

・環境負荷の抑制など、過度なクルマ利用から、かしこいクルマの利用への転換を啓発し、市民自ら移動手段について考える「場」を提供

- 各種整備事業にあわせたモビリティ・マネジメントの実施



6.駐車マネジメントの推進

・中心市街地のにぎわい、活力の再生に向けて、誰もが使いやすい交通環境をつくるため、クルマ利用の効率化に向けた既存駐車場の活用について検討

- 駐車場への案内強化
- 携帯電話を利用した駐車場情報提供システムの活用・拡充

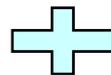


「福井市都市交通戦略」 <連携施策>

連携施策

		《目的》	《手段》	《効果》
公共交通幹線軸、 地域拠点への 機能集積	商業・業務	にぎわいの 創出	・民間投資 ・空きオフィス・店舗の活用施策等	昼間人口 の増加
	住 宅	暮らしやすさ	・住宅建設 ・定住促進に関する施策等	夜間人口 の増加
	福 祉	健康な暮らし	・交流の場づくり ・福祉有償運送サービスとの連携施策等	高齢者等の 外出増加
	環 境	地球温暖化 の防止	・環境意識の啓発 ・CO ₂ の削減施策等	公共交通へ の転換

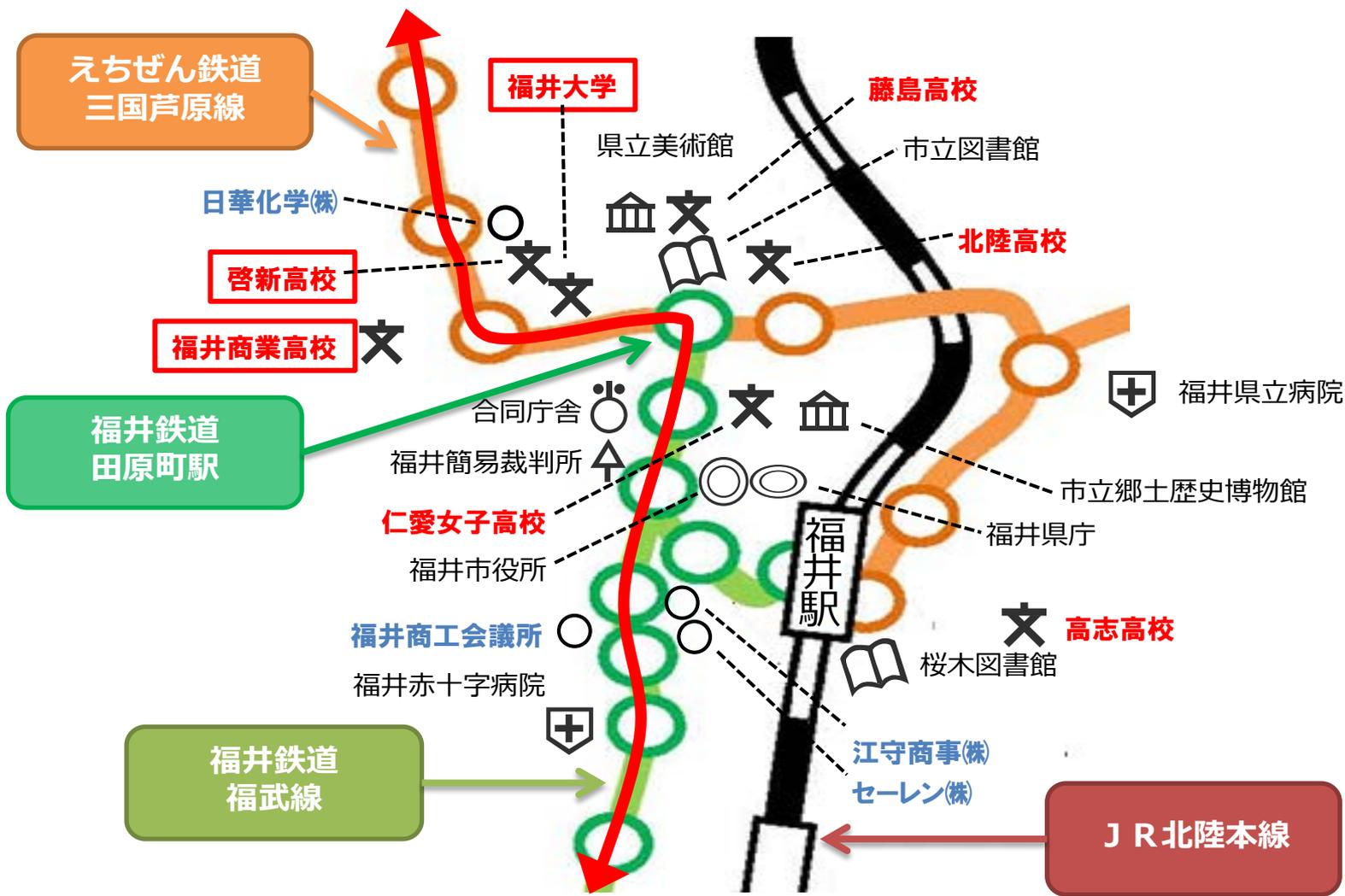
交通施策



連携施策

都市交通政策の基本方針に基づく、都市交通の目標像、公共交通の目標像を実現するため、交通施策と連携施策をからめた総力戦によるまちづくり戦略を展開

鉄道沿線地域の状況



・南北の幹線軸沿線には、多くの住宅、学校、公共施設、大手企業が立地

→ (LRVによる)相互乗り入れ、高頻度運行により、乗車数を拡大できないか

「福井市都市交通戦略」に基づく施策の展開>

- 福井鉄道福武線鉄道事業再構築実施計画やえちぜん鉄道支援スキームに基づく施策をはじめとし、公共交通利用促進やまちなか居住促進等の施策は従来より順次実施
- 平成23年～24年に、長年の懸案であった北陸新幹線の延伸、えちぜん鉄道高架化、福井駅西口中央地区市街地再開発事業等の事業化が決定
- 上記を踏まえ、「南北幹線軸としてのLRTの整備」や「交通結節機能の強化」等の主要事業についても本格的な事業化段階に移行

- 既存ストックを最大限活用

福井鉄道福武線鉄道事業再構築実施計画やえちぜん鉄道公共交通活性化総合連携計画に基づく、これまでの地域鉄道再生に向けた取り組み実績に加え、福井鉄道路面軌道区間の刷新等により、都市交通システム全体として高度化

- インターアーバン（都市間電気鉄道）

越前、鯖江、福井の3都市を結ぶとともに、路面軌道で市街地に乗り入れている福井鉄道が、今後、坂井、あわら、福井の3都市を結ぶえちぜん鉄道三国芦原線と相互乗り入れを行うことで、広域的な鉄軌道ネットワークに強化。

- 関係者が一体となった推進

鉄道存続の危機をバネに、鉄道事業者、県・沿線市町、地域住民等が一体となり推進。

LRT整備計画の具体的内容

福井版LRTプロジェクト<全体像>

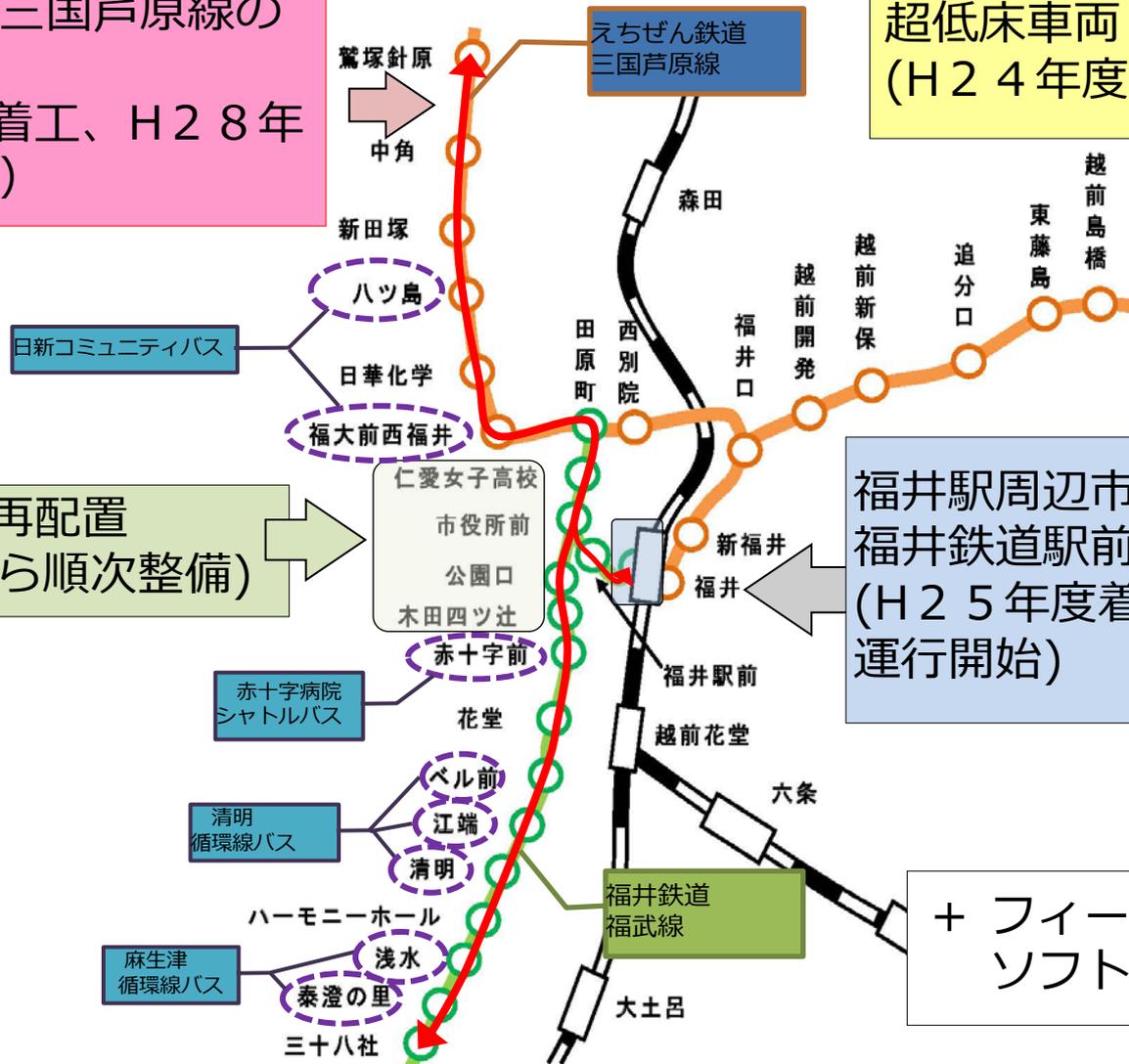
福井鉄道福武線と
えちぜん鉄道三国芦原線の
相互乗り入れ
(H25年度着工、H28年
3月運行開始)

福井鉄道、えちぜん鉄道で
超低床車両(LRV)を導入
(H24年度~H28年度)

電停の改良、再配置
(H25年度から順次整備)

福井駅周辺市街地と
福井鉄道駅前線延伸の一体整備
(H25年度着工、H28年3月
運行開始)

+ フィーダー交通支援、
ソフト施策等



田原町駅の状況（事業開始前）



相互乗り入れ事業検討会議の開催

相互乗り入れを進めるため、両鉄道事業者に加え、沿線市町や道路管理者、警察など関係者の意見を調整する場として、県が「相互乗り入れに関する事業検討会議」を開催（第1回 平成22年5月27日）

平成25年2月7日に開催した第6回会議で、平成25年度から設計やホーム改修等の工事を行い、平成27年度から越前武生駅と鷺塚針原駅の間で運行開始を目指すことを合意

【構成員】

国土交通省中部運輸局
国土交通省近畿地方整備局
福井市、鯖江市、越前市、
勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町
福井鉄道株、えちぜん鉄道株、
福井県警察本部、福井県

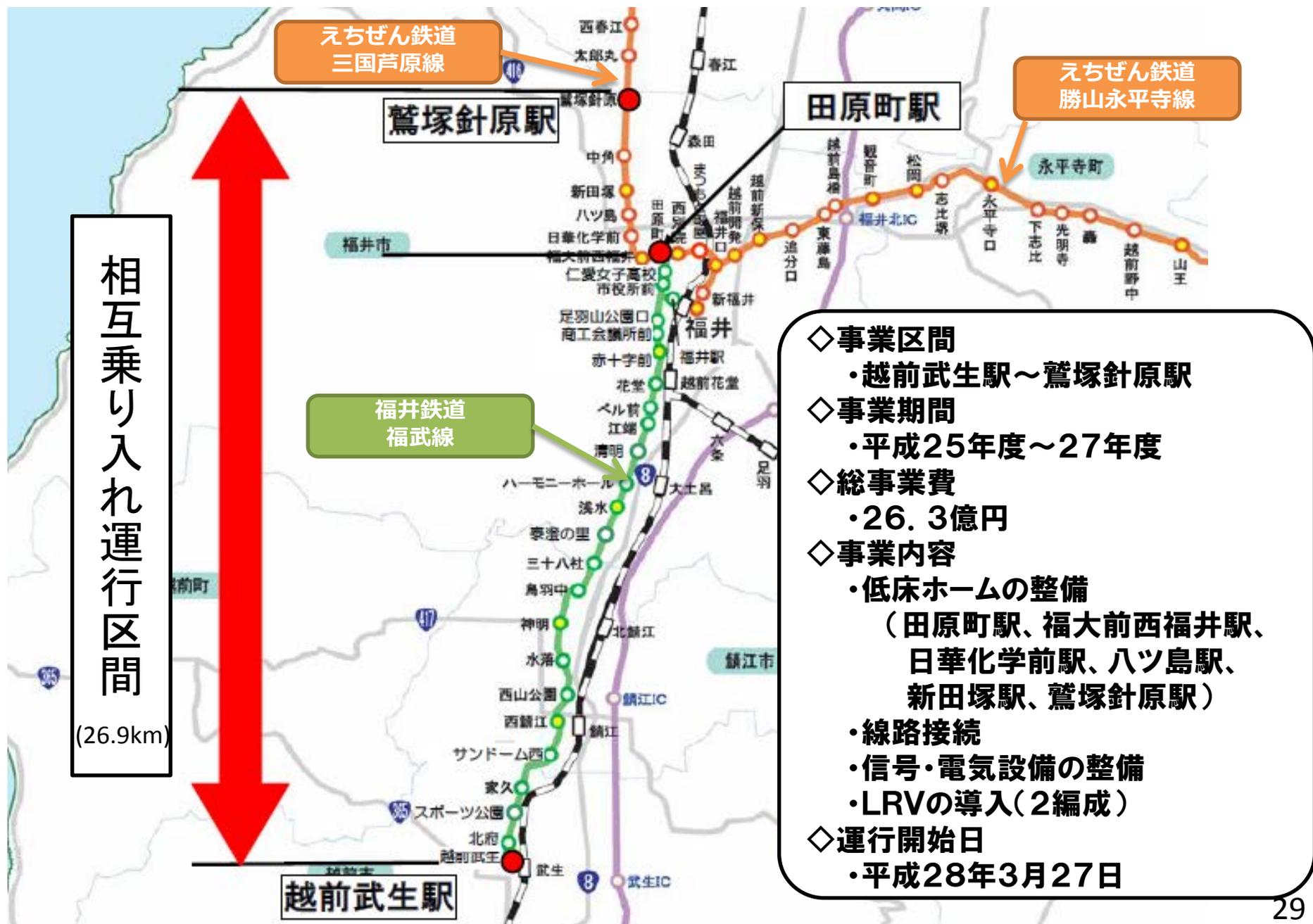
【経過】

事業検討会議（第1回）(H22.5.27)
事業検討会議（第2回）(H22.8.12)
事業検討会議（第3回）(H22.11.29)
事業検討会議（第4回）(H23.6.14)
事業検討会議（第5回）(H24.11.27)
事業検討会議（第6回）(H25.2.7)



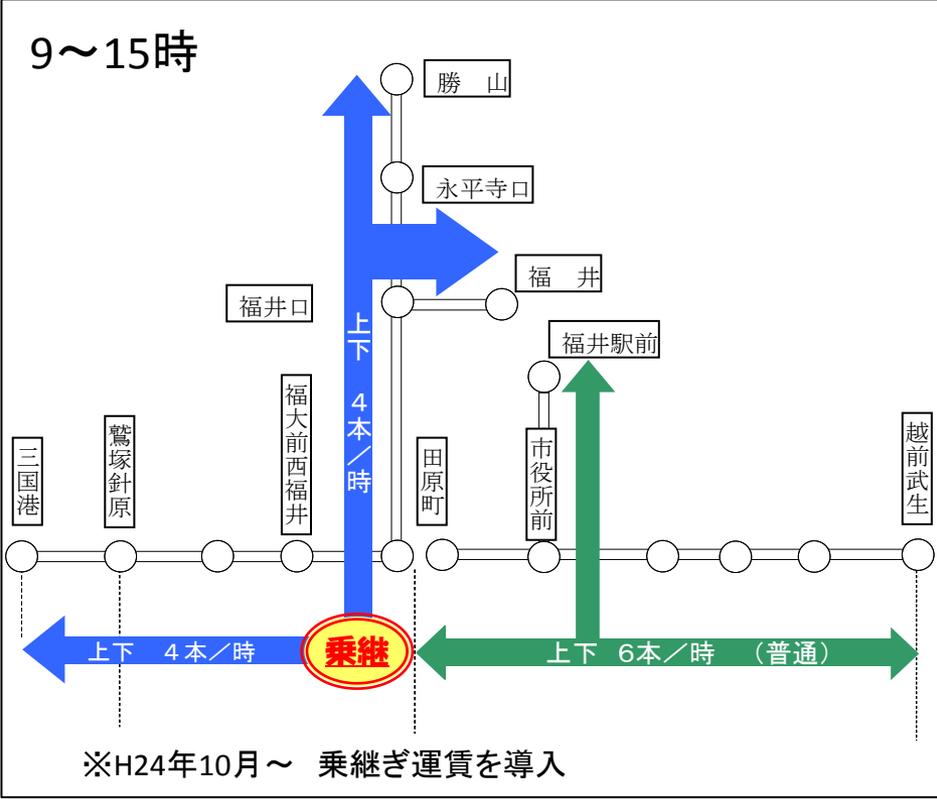
第6回 事業検討会議の様子 (H25.2.7)

福井鉄道・えちぜん鉄道相互乗入れの事業概要

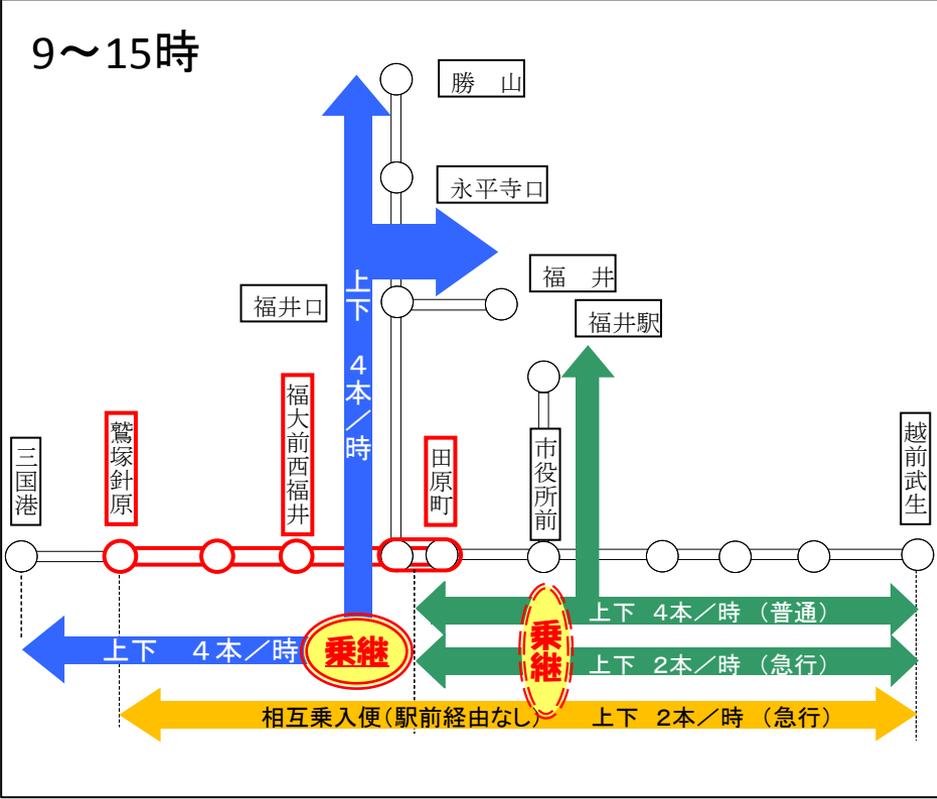


運行パターン

相互乗り入れ開始前 (H28.3月まで)



相互乗り入れ開始後



相互乗り入れ便を、毎時2本(上下)運行

{	福井鉄道	: 毎時 6本(上下)	→ 毎時 8本(上下)
	えちぜん鉄道	: 毎時 4本(上下)	→ 毎時 6本(上下)

福井鉄道・えちぜん鉄道相互乗り入れの効果（平成28年3月時点）



〔運行時間の短縮〕

越前武生 ⇄ 鷺塚針原駅
約80分 → 約60分（約20分短縮）

〔運行本数の増〕（9～15時）

福井鉄道区間
6本/時 → 8本/時（2便/時増）
えちぜん鉄道区間
4本/時 → 6本/時（2便/時増）

通学利用者の利便性向上

- ① 丹南方面から福井商業高校、啓新高校、福井大学等に通学する学生の乗り継ぎ解消
- ② 福井市北部から仁愛女子高校等に通学する学生の乗り継ぎ解消

通院利用者の利便性向上

- ① 丹南方面から病院に通院する高齢者の乗り継ぎ解消
- ② 福井市北部から赤十字病院に通院する高齢者の乗り継ぎ解消

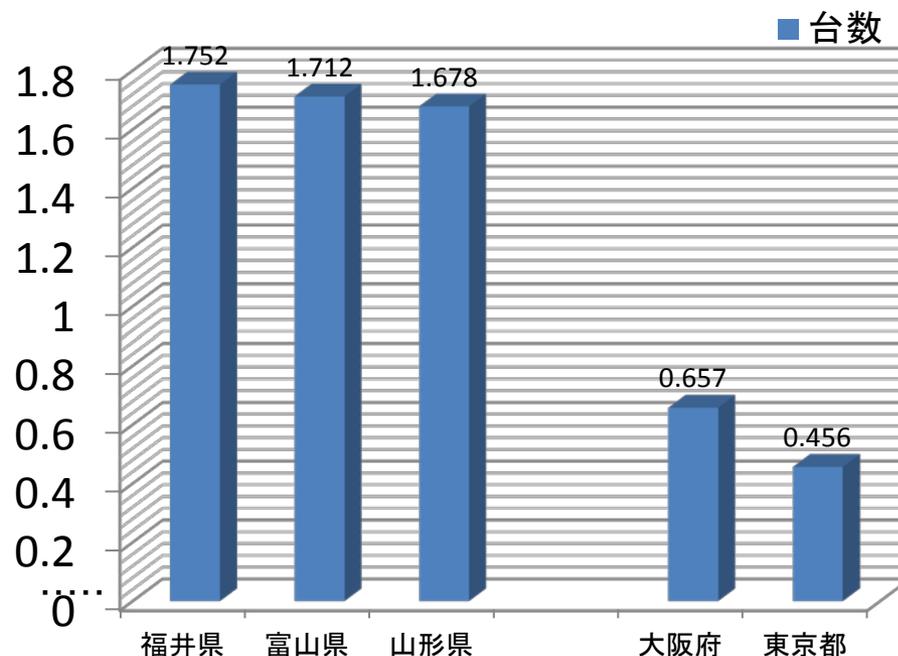
通勤利用者の利便性向上

- ① 福井市北部から福井市中心部への通勤ニーズの掘り起こし



- ・福井県は全国トップのクルマ依存社会
- ・相互乗り入れ事業により鉄道の利便性を高め、クルマから公共交通への利用転換につなげる
- ・公共交通の利用促進は、CO₂削減など地球温暖化対策にも貢献

○ 自家用乗用車の世帯当たり普及台数



相互乗り入れに使用する車両の確保

福井鉄道車両



F1000形 (定員155名)



770形 (定員90名)



F1000形 (定員155名)

えちぜん鉄道車両



L形 (定員100名)

えちぜん鉄道が新たに導入したLRV

- ・環境省の、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
（低炭素化に向けた公共交通利用転換事業）
を活用し、低床車両を2編成導入

※自動車から公共交通への利用転換により、二酸化炭素の排出抑制を図るもの

愛称 「ki-bo」 (キーボ)



L形 (定員100名)
全長18.7m 最高速度70km/h

田原町駅

- ・えちぜん鉄道三国芦原線専用ホーム(高床)、
福井鉄道福武線専用ホーム(低床)、
相互乗り入れ専用ホーム(低床)の整備
- ・両社線路の接続、信号保安システムの整備



整備後

中央が相互乗り入れ専用線
(LRVが停車している線)



線路の接続部分

左 えちぜん鉄道 三国芦原線
中央 相互乗り入れ専用線
右 福井鉄道 福武線(留置線)

整備後の田原町駅



福井鉄道側から見た駅舎およびホーム
・駅務室、待合室、トイレ、駐輪場等を整備、バリアフリー化

田原町駅周辺の整備（福井市）

- 相互乗り入れにより改修された田原町駅の周辺に、交流広場を整備（H29完成予定）

（完成イメージ）



① 右折車両分離方式信号の導入

- ・自動車と列車の接触を避けるため、軌道信号の進現示と、自動車信号の右折現示を分離

※信号は、「赤」、「黄」、「直左」または「右」の矢印表示のみ

② 電車PTPSの導入

- ・列車接近に合わせ、青の延長もしくは赤の短縮を行うPTPS(公共車両優先システム)を設置し、列車の信号待ち時間を短縮
- ・バスと電車のPTPSの同一区間での運用は全国初

③ 電停の改良(広幅ホーム)

- ・ホーム幅が約0.8mと狭く、乗降に時間を要していたため、幅を2mに広げるによりラッシュ時の乗降時間を短縮



電車専用信号と右折車両分離方式信号



仁愛女子校電停(従来)



仁愛女子校電停(改良後)

電停・PTPS・右直分離信号 整備全体図



電停改良 4箇所 (平成25年度～)

PTPS整備 6箇所 (平成26年度)

右直分離信号整備 3箇所 (平成26年度)

(既設右直分離信号 2箇所)

凡 例	
■	電停(現況)
■	電停(改良案)
●	バス停

電停のバリアフリー化



Before

- ・利用者の利便性、安全性の向上
- ・運行の定時性向上

電停幅0.8mから2.0mに拡幅
上屋、ベンチ、スロープ、照明を設置

H26.2 仁愛女子高校電停完成

H27.3 足羽山公園口電停完成

H28.2 商工会議所前電停完成

H28以降 市役所前電停改良予定

仁愛女子高校電停の乗降者数が**1.5倍**に増加

H24 198人/日 → H27 306人/日



After



相互乗り入れ運行開始後の利用状況

平成28年3月27日の相互乗り入れ開始後半年の利用者

・えちぜん鉄道・福井鉄道間の

一般利用者は、前年同時期に比べ**約2.9倍**

・土日限定の「福井鉄道・えちぜん鉄道共通1日フリーきっぷ」

利用者は**約2.2倍**

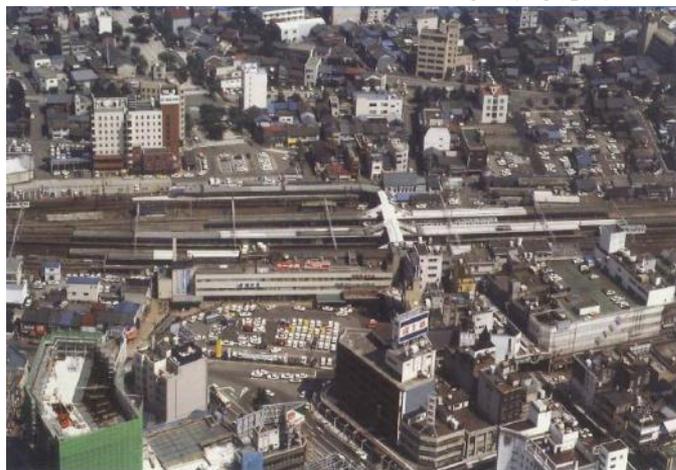
期 間	一般利用者 〔片道きっぷ、往復きっぷ、 回数券、定期券〕	福井鉄道・えちぜん鉄道 共通1日フリーきっぷ利用者 (きっぷの売上枚数×2で計算)
平成28年4月1日(金) ～9月30日(金)	約62,900人	約5,400人
【前年】 平成27年4月1日(水) ～9月30日(金)	約21,700人	約2,500人

(きっぷの売上枚数から推計した数値)

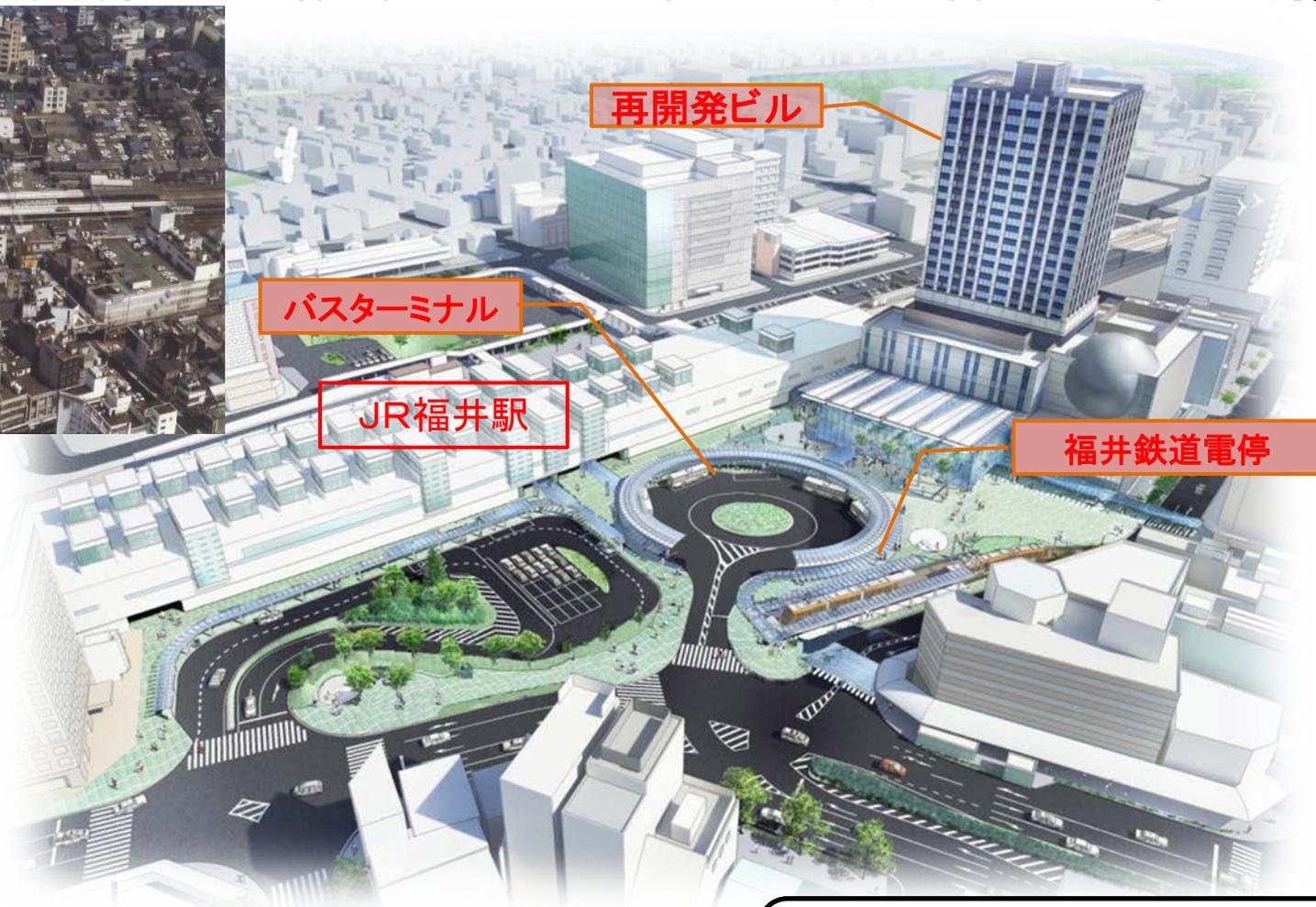
LRT整備計画の具体的内容

福井駅周辺市街地と福井鉄道駅前線延伸の一体整備

福井駅西口全体空間デザイン基本方針を決定（平成24年12月）



Before



再開発ビル、交通広場をデザイン面も含め、一体的に計画
平成28年完成を目指し一体的に整備

平成25年10月ビル着工
平成28年オープン

福井駅周辺土地区画整理事業



JR福井駅周辺の整備

- ・福井駅周辺土地区画整理事業－平成30年度完了予定
- 福井駅西口広場整備－平成28年3月27日完成供用
- 福井駅東口広場整備－平成21年4月暫定供用開始、30年度完成予定
- ・福井鉄道駅前線延伸－平成28年3月27日運行開始
- ・バスターミナル移転－平成28年3月27日シンボルロードから西口駅前広場に移転供用開始
- ・西口再開発事業(ハピリン)－平成28年4月28日グランドオープン
- ・連続立体交差事業(えちぜん鉄道)－平成27年9月仮線運行・平成30年本線高架切り替え予定

LRT整備計画の具体的内容

福井駅周辺市街地と福井鉄道駅前線延伸の一体整備〈期待する効果〉

にぎわい交流の拠点形成

再開発ビルに諸機能を配置

- 住居
- 観光関連施設
- 店舗(商業施設)
- ボランティアセンター
- プラネタリウム
- 子ども一時預かり所
- 展示スペース
- 駐輪場
- 多目的ホール

交通結節の強化

西口交通広場を拡大し、路面電車・バス・タクシー・自家用車の乗降所を整備

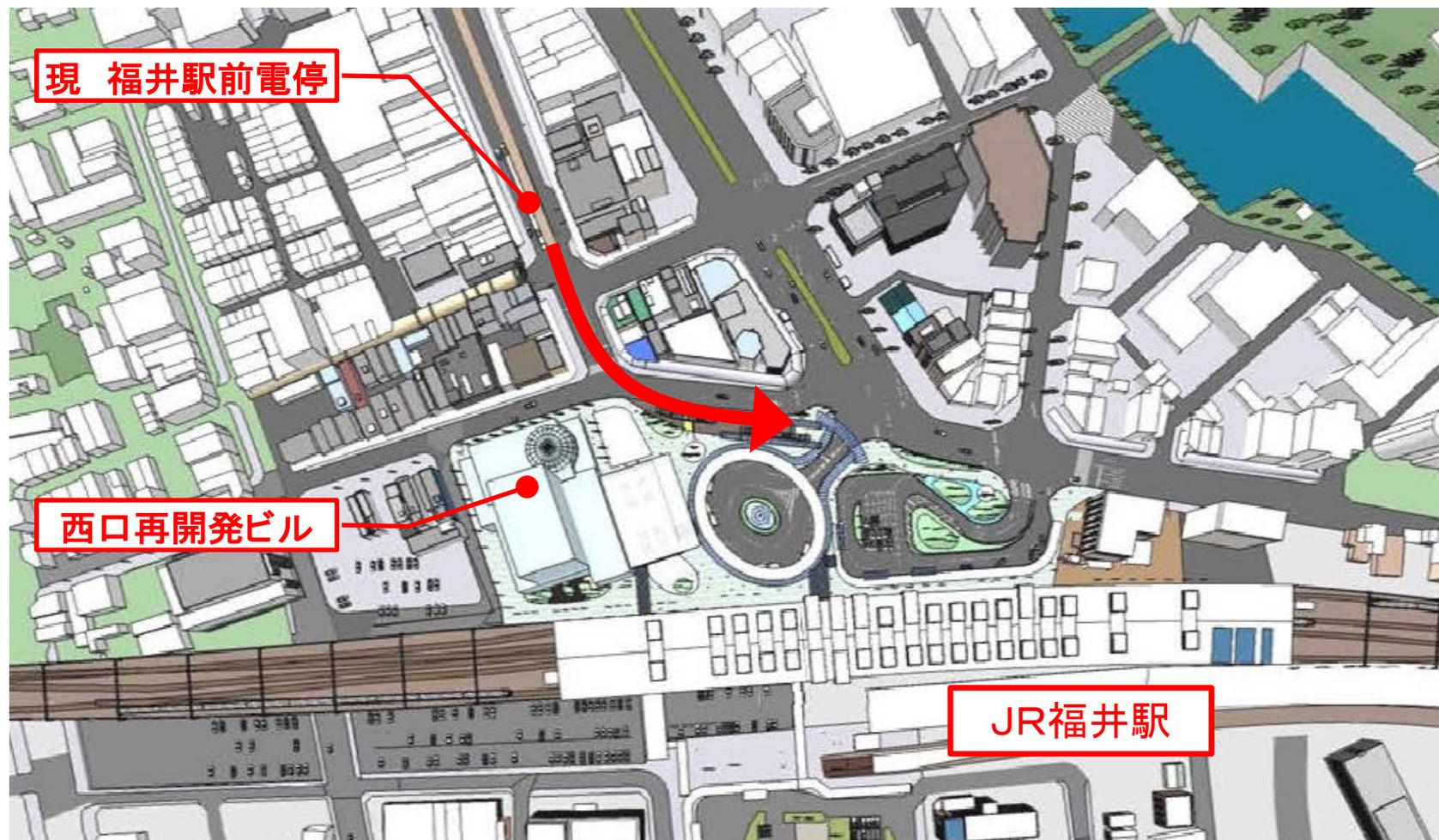


西口交通広場に面した屋根つき広場を待ち合い・イベント空間として整備

LRT整備計画の具体的内容

福井駅周辺市街地と福井鉄道駅前線延伸の一体整備

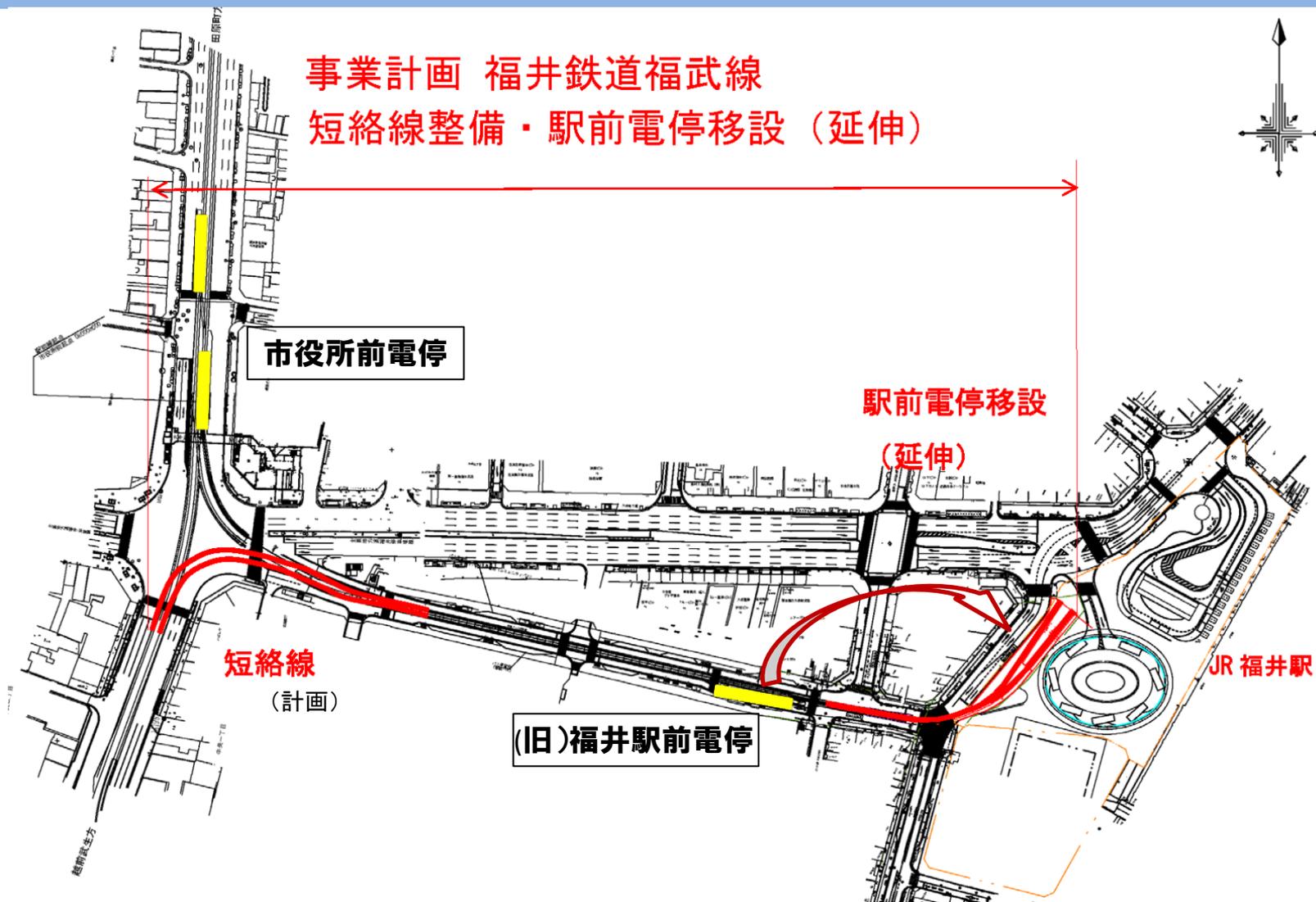
福井鉄道駅前線延伸の概要



西口広場との一体整備 JR福井駅から離れている駅前電停から西口の整備にあわせて
143m延伸し、利便性・安全性を高める

LRT整備計画の具体的内容

福井鉄道駅前線 駅前電停移設(延伸)



福井鉄道駅前線を143m延伸し、福井駅前電停を西口広場に移設

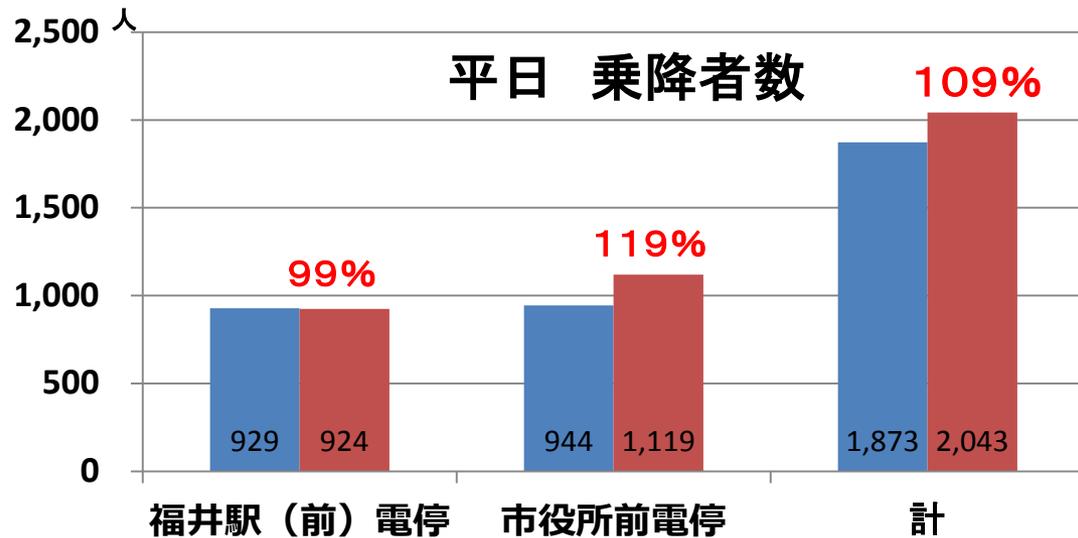
完成した福井駅西口広場 バスターミナル、福井鉄道福井駅



福井鉄道福井駅

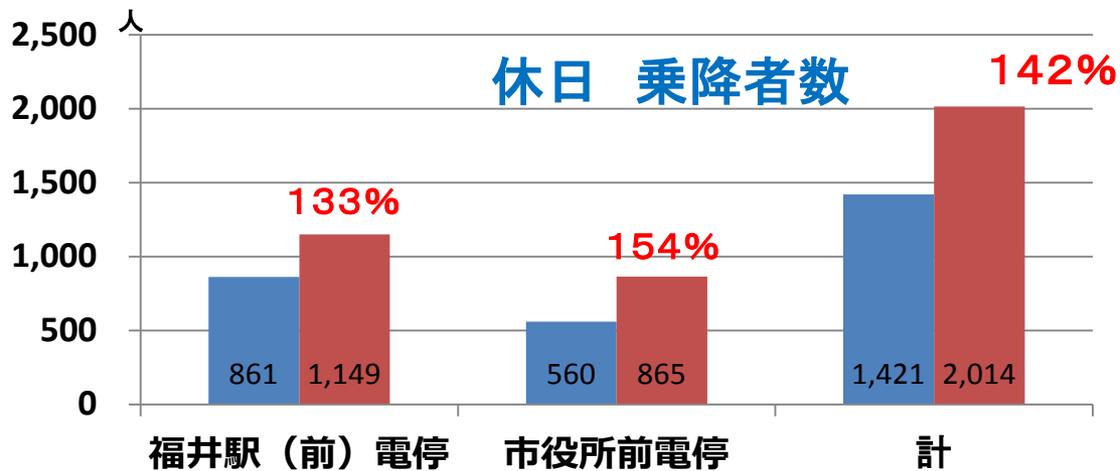


福井鉄道駅前線延伸、相互乗入運行開始後の福井駅の利用状況



■ H27年6月 平日
■ H28年5月16日 (月)

市役所前で増加
通勤利用が福井駅から
市役所へシフト傾向



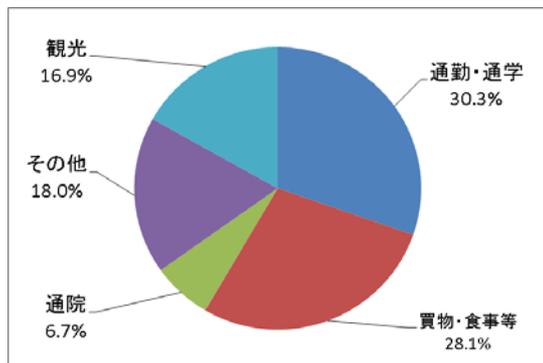
■ H27年6月27日 (土)
■ H28年5月14日 (土)

福井駅、市役所前とも増加
ハピリン開業効果

注) H27のデータは市役所前電停での急行乗継の乗降数を想定して補正している。

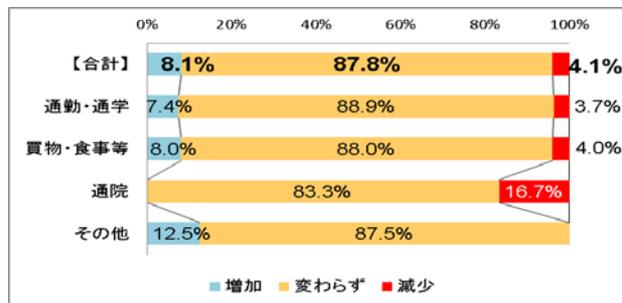
福井駅西口広場への駅前線延伸後の 福井鉄道福井駅利用者アンケート

1 利用目的



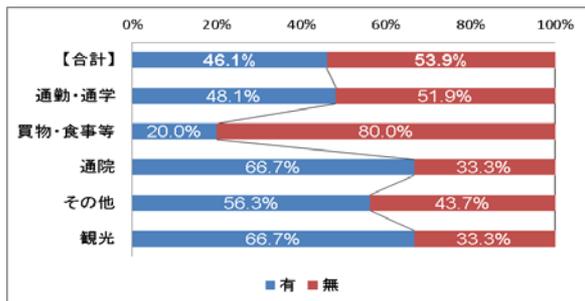
通勤・通学が30%、買物、通院等が35%

2 利用頻度の変化



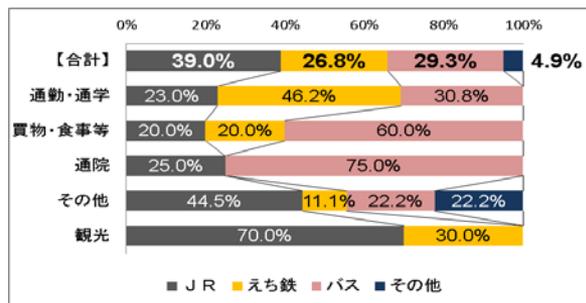
8%が増加と回答

3 他の交通機関との乗継の有無



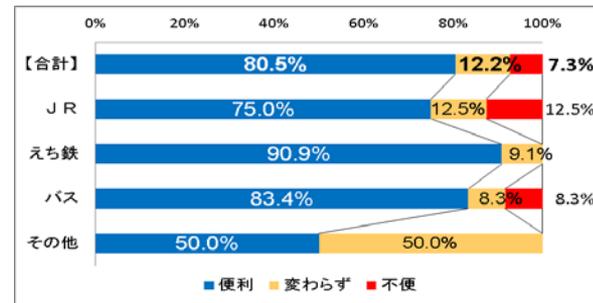
46%が乗継を行っている。

4 乗継に利用した交通機関



JR、バスとの乗継が多い。
通勤・通学ではえち鉄乗継が多い。

4 乗継の利便性の変化



80%が向上したと回答。

調査日：平成28年5月12日(木)、5月16日(土)、回答数：89人

福井駅西口広場の概要

福井駅西口広場

(平成28年3月27日完成供用)

面積約11,000㎡

- ・バスターミナル
乗降用6台 降車用1台 待機3台分
- ・タクシー乗降場
乗車2台 降車2台 待機24台
- ・一般車乗降場
乗降用10台 障害者用1台
- ・路面電車電停
福井鉄道福武線



再開発ビル
(ハピリン)

屋根付き広場
(ハピテラス)

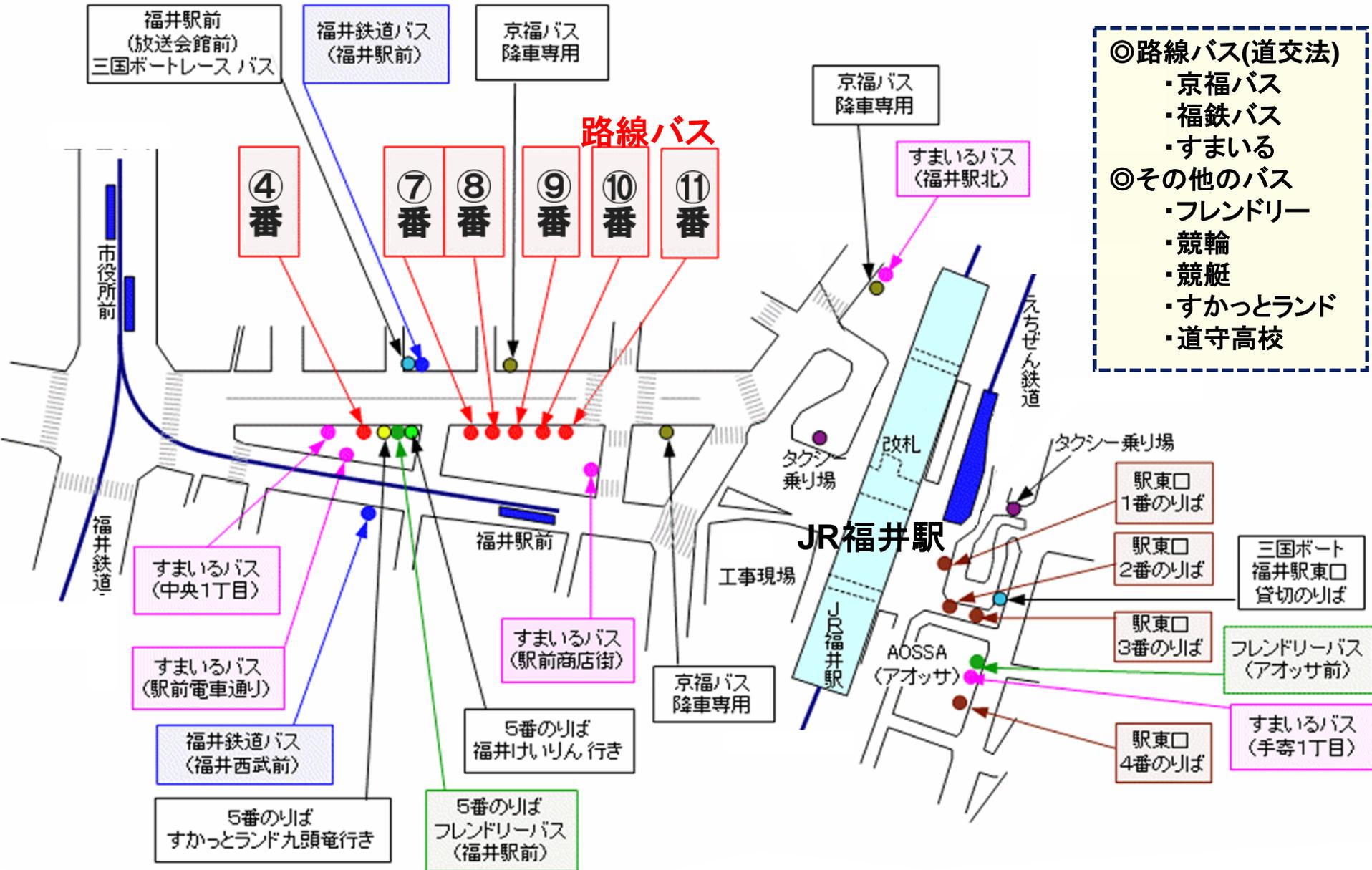
バスターミナル

タクシー乗降場

一般車乗降場

電停

西口バスターミナル整備前のバス発着状況

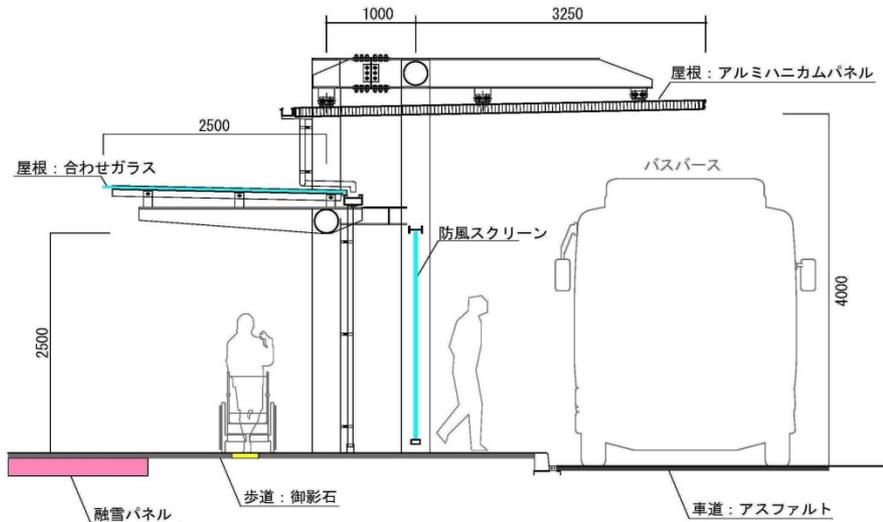


福井駅西口広場バスターミナルの整備

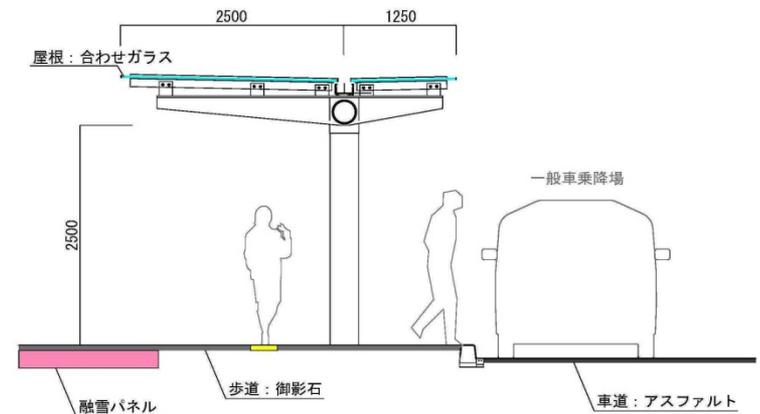


福井駅西口広場の整備について(工事概要)

バスターミナル部 標準断面図



一般車乗降場部 標準断面図



JR福井駅コンコースより



工事概要

シェルター(上屋)

- ・ガラス屋根 L=275m
- ・アルミ屋根 L=341m

歩道

- ・御影石舗装 A=4,360²
- ・融雪パネル A=2,120²

車道

- ・アスファルト舗装 A=2,380²
- ・半たわみ性舗装 A=2,120²
- ・散水消雪管 L=370m

その他施設

案内サイン、照明、植栽等

新バスロケーションシステムの導入

- 福井駅西口バスターミナルと駅前大通りのりばに新バスロケーションシステムを整備
- 40インチの液晶モニターにバスの行き先、接近情報、運行情報をリアルタイムで表示
- 音声(日本語・英語)でも案内



Before

バス接近情報ご案内		只今の時刻
		13:23
市内南西部方面		
足羽山公園下・赤十字病院・みどり図書館 経由	74	
清水プラント3 方面		
Japanese Red Cross Fukui Hospital/Plant3		
まもなく 到着 いたします		
福井商工会議所・赤十字病院・ベル 経由	77	
シルバー病院 方面		
Japanese Red Cross Fukui Hospital/Bell/Sukoyaka Elder Hospital		
まもなく 到着 いたします		
有楽町・福井競輪場 経由	78	
道守高校・越前海岸水仙ランド 方面		
Michimori Highschool/Echizen Coast/SuisenLand		
お知らせ		

液晶モニターによる運行情報の表示

バスが乗り場に近づく
「まもなく到着いたします」が点滅表示し、音声で案内

広域バスナビゲーションシステムの導入

- 路線バスの位置情報、運行状況をリアルタイムで提供
スマートフォン、パソコン、携帯電話で利用可能
- GPSを利用することにより、これまでエリア圏外であった
山間部や沿岸部も利用可能となる。

対象路線

京福バス全路線(福井市、大野市、勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町、池田町)、コミュニティバス(福井市、坂井市、永平寺町、越前町)

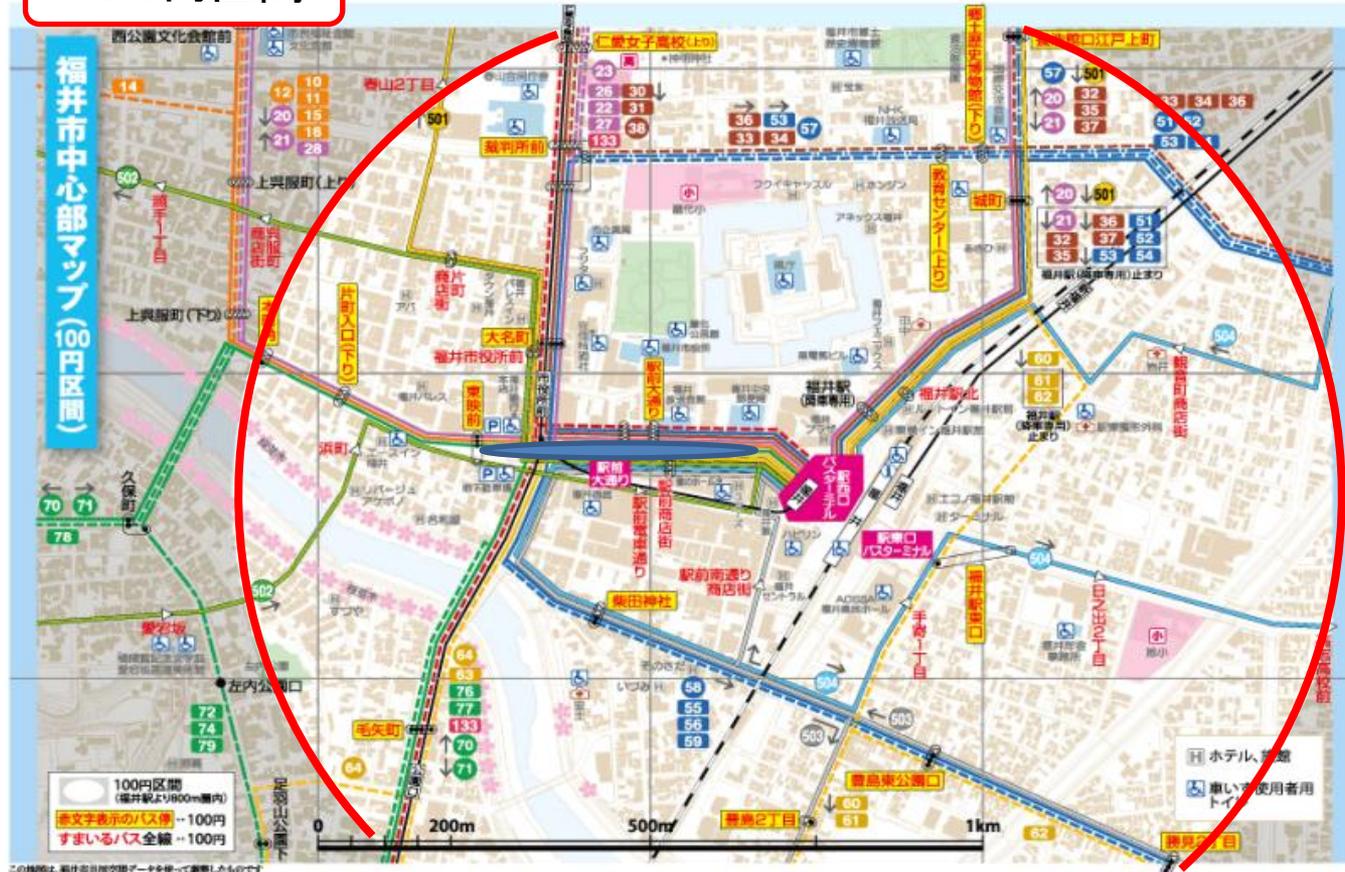
- ・路線図、バス停位置、バスの位置を表示
- ・時刻表検索も可能



100円区間の導入

平成28年3月27日の福井駅西口広場のバスターミナル供用にあわせ、福井駅から約800mのエリア従来の200円から100円に値下げ！！ 短距離区間での利用者増をめざす。

100円区間

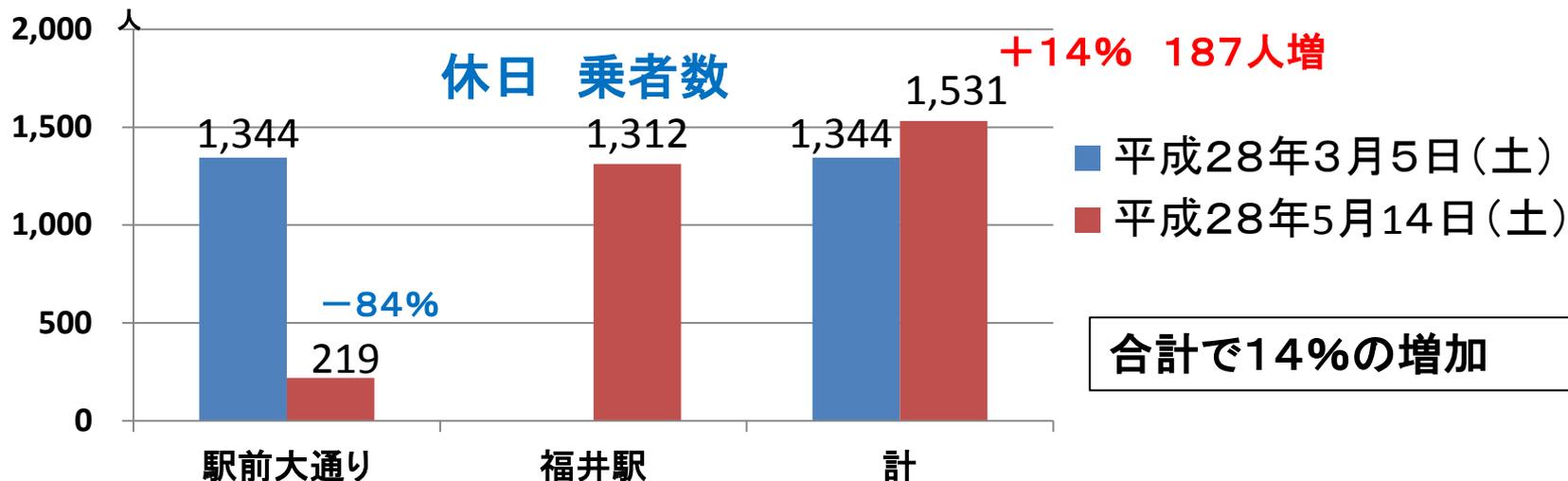
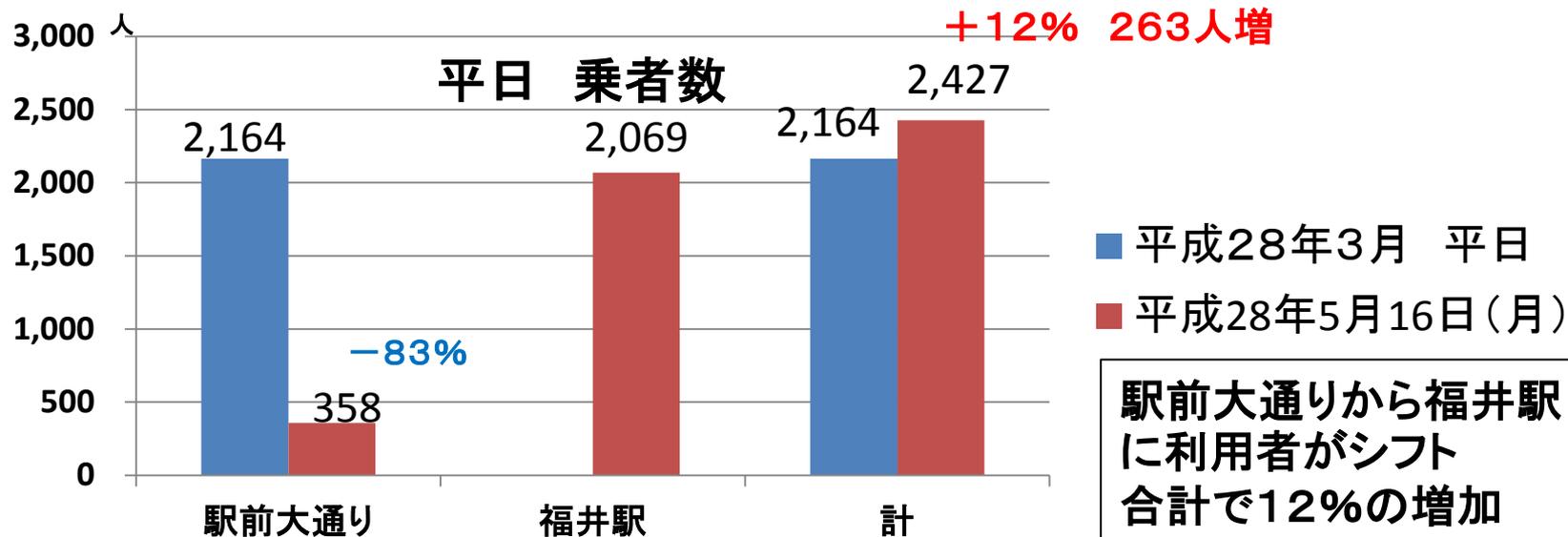


新たに対象となるバス停

- 駅前大通り
- 東映前
- 大名町
- 片町入口(下り)
- 本町角
- 裁判所前
- 仁愛女子高校(上り)
- 教育センター(上り)
- 城町
- 郷土歴史博物館(下り)
- 養浩館口江戸上町
- 福井駅東口
- 毛矢町
- 柴田神社
- 豊島東公園口
- 豊島2丁目
- 勝見2丁目

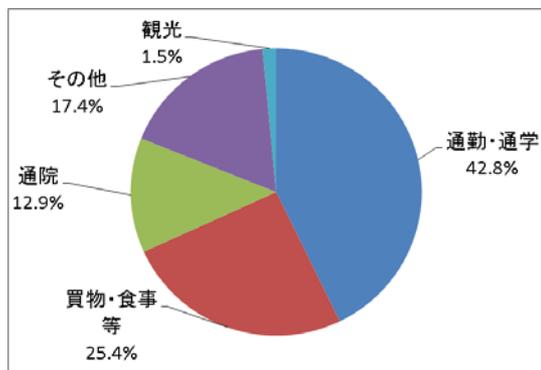
※すまいるバスは従来通り100円です

福井駅西口広場バスターミナル供用後の 福井駅周辺のバス利用状況



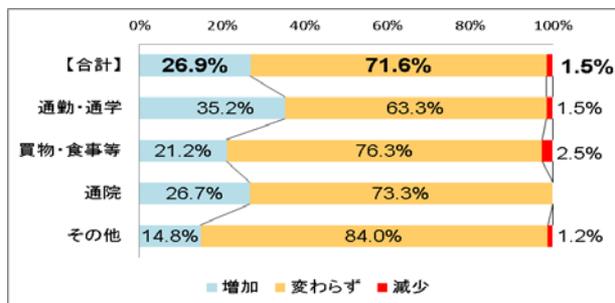
福井駅西口広場バスターミナル供用後の 福井駅バスのりば利用者アンケート

1 利用目的



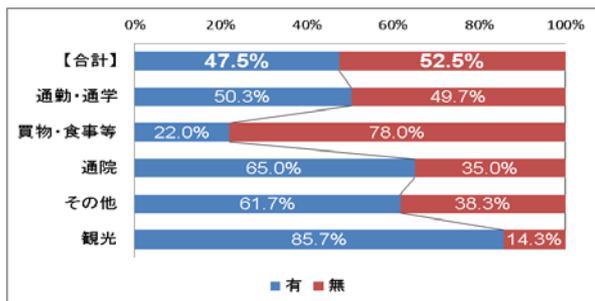
通勤・通学が42%、買物、通院等が38%

2 利用頻度の変化



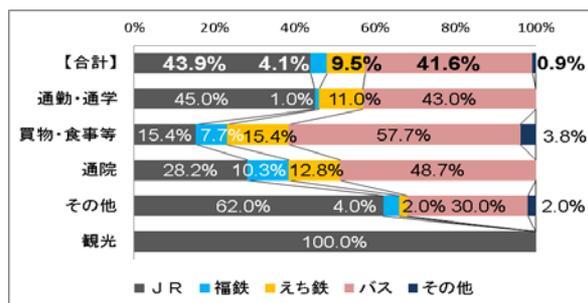
27%が増加と回答

3 他の交通機関との乗継の有無



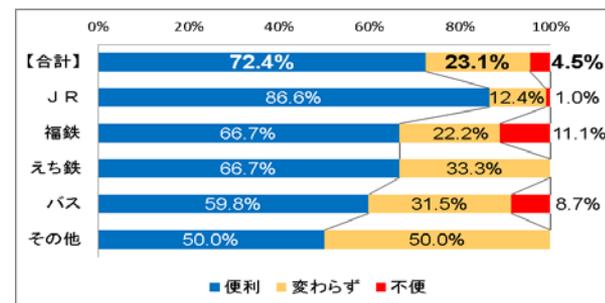
48%が乗継を行っている。

4 乗継に利用した交通機関



JR、バスとの乗継が多い。

4 乗継の利便性の変化



72%が向上したと回答。

調査日：平成28年5月12日(木)、5月16日(土)、回答数：465人

福井駅西口中央地区市街地再開発事業

◆事業の目的

都市間競争や北陸新幹線開業にも対応したまちづくりを進めるため、福井駅西口駅前広場と連携した県都の玄関口にふさわしい『にぎわい交流拠点』の形成を図る。

◆事業概要

地区面積：約 0.7 ha

敷地面積：約 5,550㎡

延床面積：約 35,140㎡

階数：地上21階、地下2階 高さ：約90m

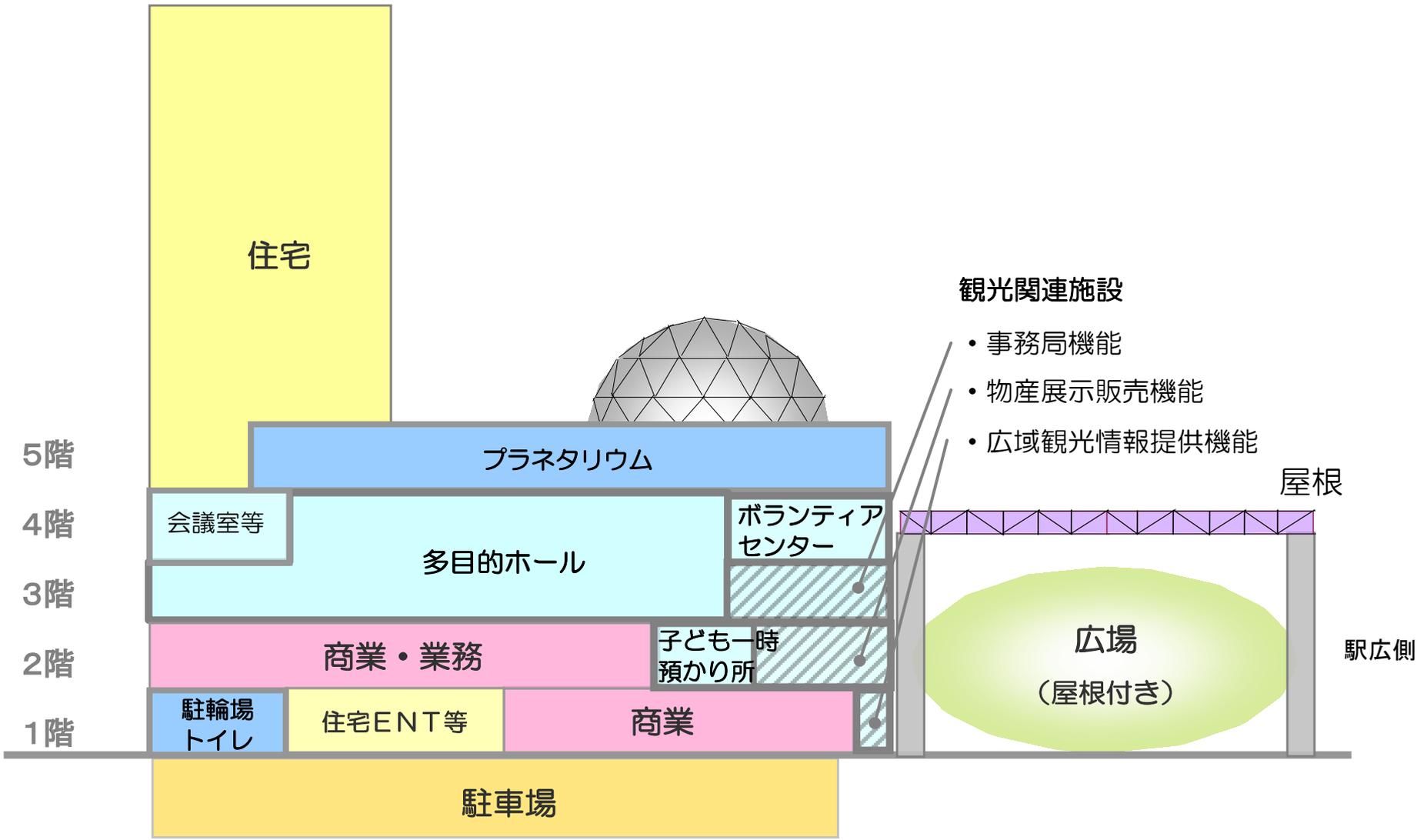
◆主な施設

商業店舗、住宅、駐車場

市施設：自然史博物館分館(プラネタリウム)、多目的ホール、観光物産館、観光案内所、ボランティアセンター、子ども一時預かり所、駐輪場、屋根付き広場



西口再開発ビル概要



交通・まちづくりの主要施策

② 幹線バス路線の整備(清水グリーンラインの新設)

- 高額な運賃（最高1,380円）
- 幹線としては少ない運行本数
- ニーズに対応しきれていない運行経路

- 農山漁村地域における少子化、高齢化、過疎化の進行



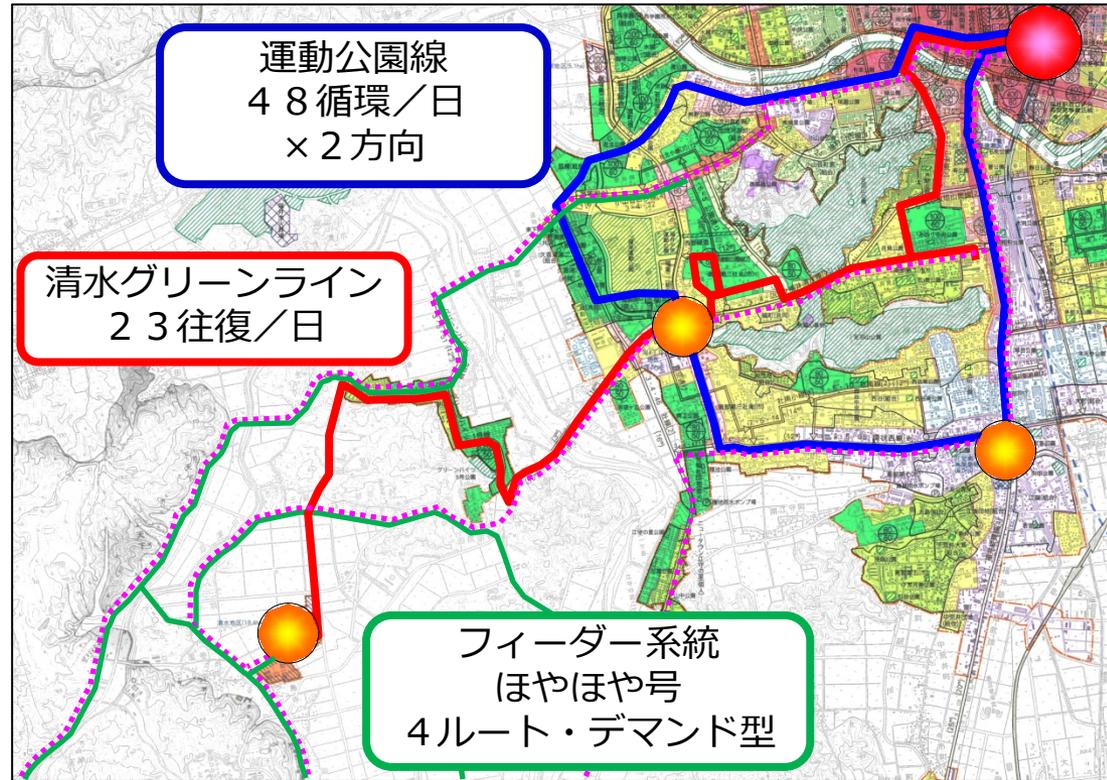
- 年々減り続ける利用者、運賃収入
- 年々増え続ける欠損補助額

⇒ **行政負担の限界**



- 抜本的な見直し
(3路線を集約し幹線と支線に再編)

⇒ **清水グリーンラインの新設**



清水グリーンラインの特徴

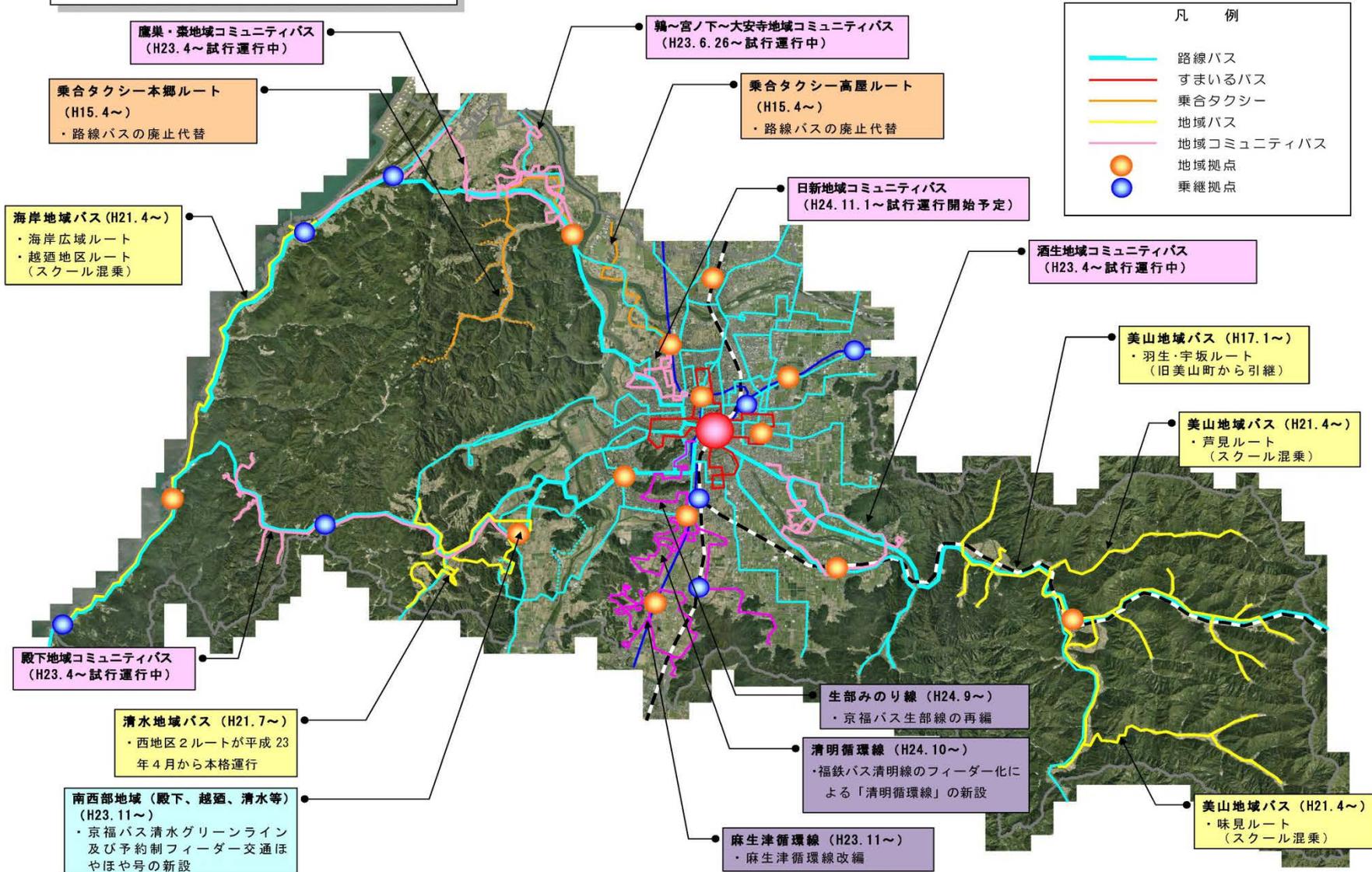
- 30分間隔・平日23往復の運行頻度
- 300円の上限運賃制を採用
- みどり図書館付近の住居系市街地を新たなサービス提供区域に含む
- 清水地域拠点の大規模商業施設敷地内に乗継拠点(待合所,P&R)を整備し、フィーダー系統(ほやほや号 上限400円)と結節

『運動公園線』と『清水グリーンライン』により、
市街地南西部地域における幹線バス路線ネットワークが完成

③ 幹線バス等を補完する地域内フィーダー交通の確保・維持

地域特性に応じたバス交通サービス提供をしている地域⇒16地域

福井市内の公共交通機関

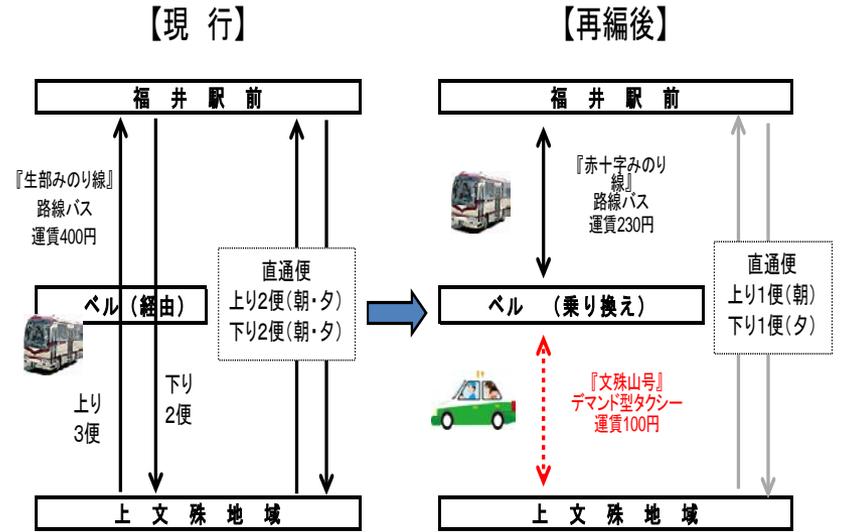
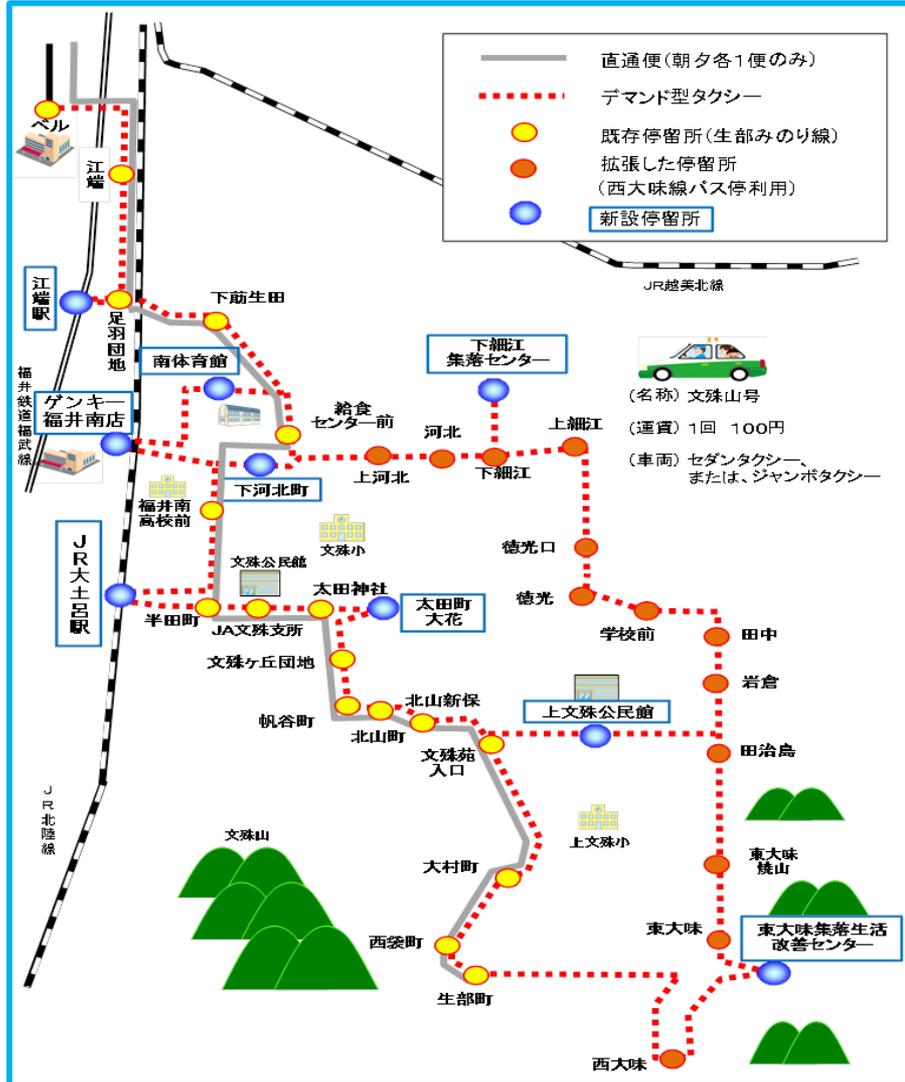


交通・まちづくりの主要施策

③ 幹線バス等を補完する地域内フィーダー交通の確保・維持

路線バス「生部みのり線」再編に係る社会実験（H27年10月～H29年9月）

- ・ 地域拠点の大型商業施設を乗継拠点とするデマンド型タクシーに再編



デマンドタクシー文殊山号の特徴

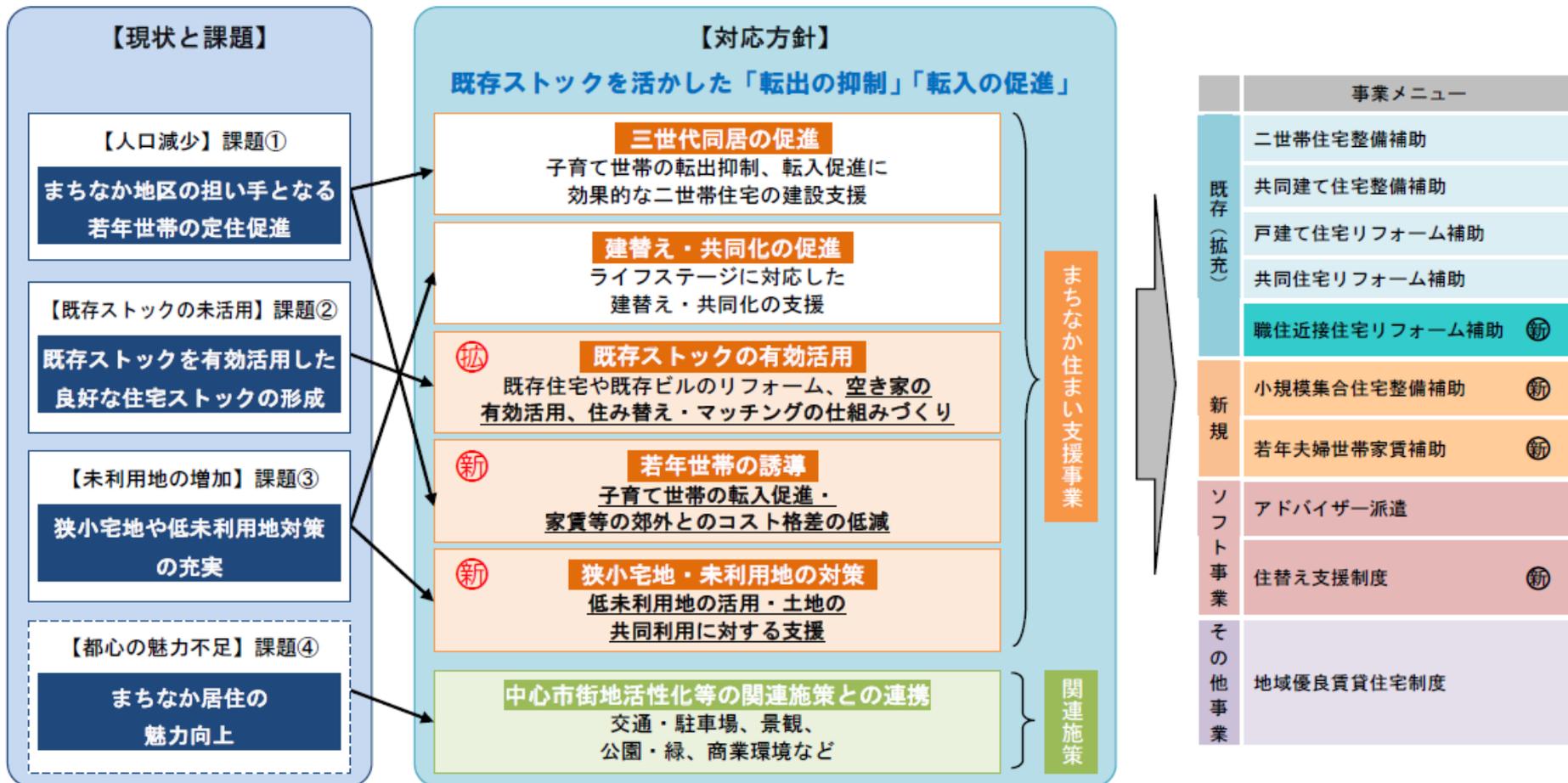
- ・ 運賃100円(再編前 生部-ペル 350円)
- ・ 大型商業施設から上文殊地域まで上下9便から13便へと4便増便
- ・ 運行エリアを拡大し、停留所を9箇所新設
- ・ JRや福井鉄道の駅にも接続するルート設定
- ・ 通勤・通学時間帯は従来通り福井駅まで直通路線バスを運行

効果 (H27.10月～H28.8月)

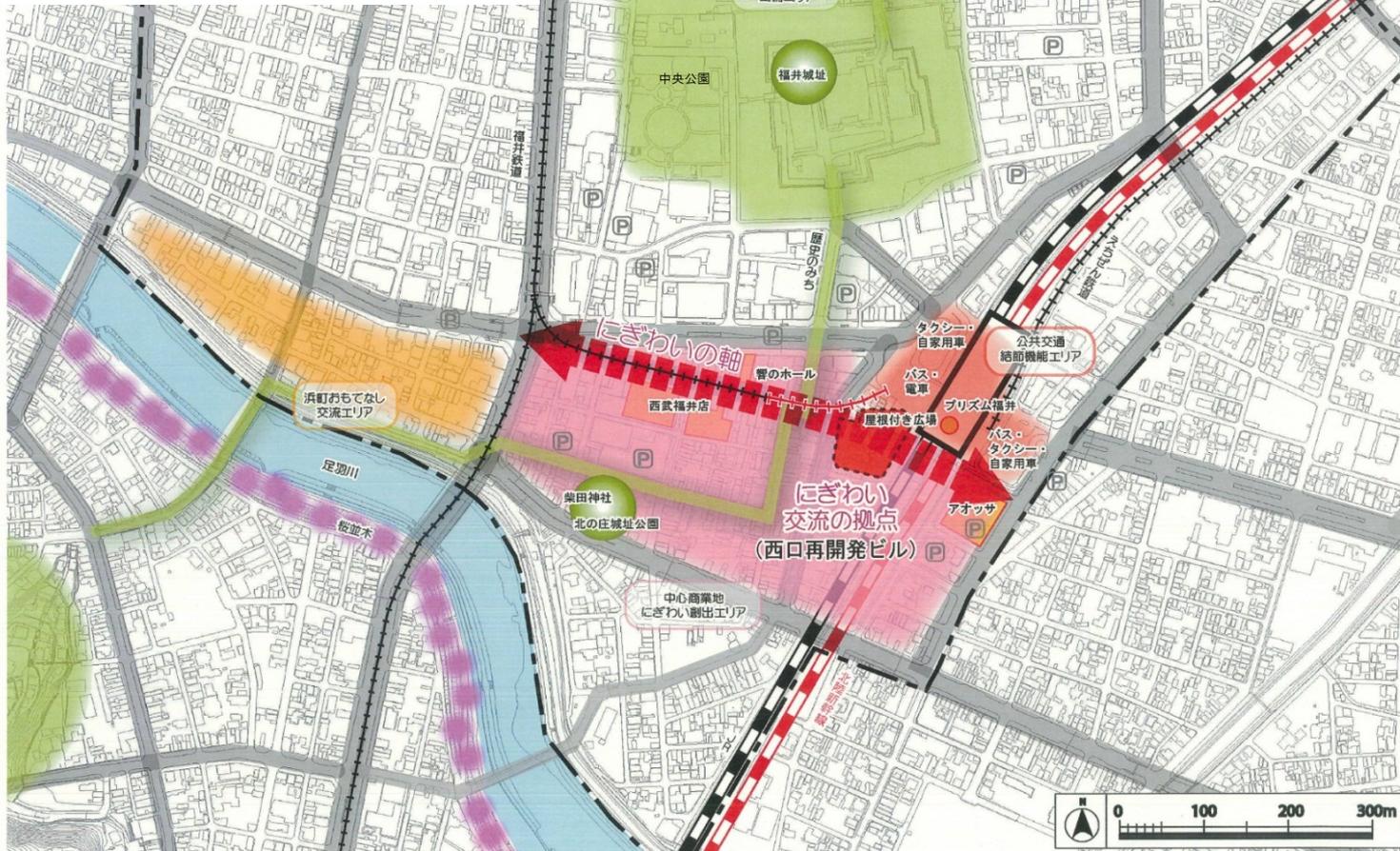
- ・ 利用者数が1.4倍に増加(月187人→266人)
 - ・ 運行経費の節減(予約率は約7割)
- 〈参考〉沿線の人口 約5000人

④ まちなか居住(福井市)

- 少子高齢化による人口減少社会に対応するため、持続可能な都市づくりが必要 ➡ まちなか住まい支援事業 (平成25年3月改定)



福井市の中心市街地 まちなか活性化が始まっています。



■ 広域観光の玄関口「京都の顔づくり」

■ 北陸新幹線

平成34年度
金沢-敦賀間
開業予定



■ えちぜん鉄道の高架化

平成30年度完成予定



踏切の解消で東西市街地の行き来がスムーズに

■ 駅前につながる新しい市民の移動手段

■ FUKURAM (フクラム)



平成25年3月運行開始

■ RETRAM (レトラム)



平成26年4月運行開始

■ 自然と水辺の憩い空間 【足羽川】



■ 河川空間の賑わい創出と親水空間整備



仮設デッキ等の整備イメージ

■ 食と歴史が漂う浜町おもてなし空間

■ 浜町の食と落ち着いた街並みに竹むグリフィス記念館をめぐって観光誘客



H27.10月 グリフィス記念館オープン

■ 賑わう！ まちなかイベント！

■ 電車通りのステージイベントには大勢の観客が集結！！



H25.10月 まちフェス 西武福井店前

■ 心地よく暮らせる「まちなか」を創出



エリアス (75戸)
平成22年3月入居開始

シノエグザコート福井 (89戸)
平成28年春入居開始予定

これからの福井駅周辺のまちづくり

■えちぜん鉄道連続立体交差事業(～H30)

- ・高架施設整備
- ・えちぜん鉄道福井駅舎整備

■福井駅周辺土地区画整理事業(～H30)

- ・東口駅前広場整備
- ・区画道路整備

■北陸新幹線整備(～H34)

- ・高架施設整備
- ・新幹線福井駅舎整備
- ・並行在来線開業

■民間建築物の建て替え(H28～)

- ・老朽ビルの更新やリノベーションなど民間投資の促進
- ・優良建築物等整備事業など

■公共交通を活かしたコンパクトなまちづくり

- ・立地適正化計画
- ・公共交通体系の再構築や交通系ICカードの検討
- ・公共交通網周辺への居住誘導、都市機能誘導



- ・北陸新幹線敦賀開業や中部縦貫自動車道全線開通など、高速交通の「開通効果」を極力高め、県内全域に浸透させるため、「県民共有の行動計画」として作成したもの

重点投資を行う分野

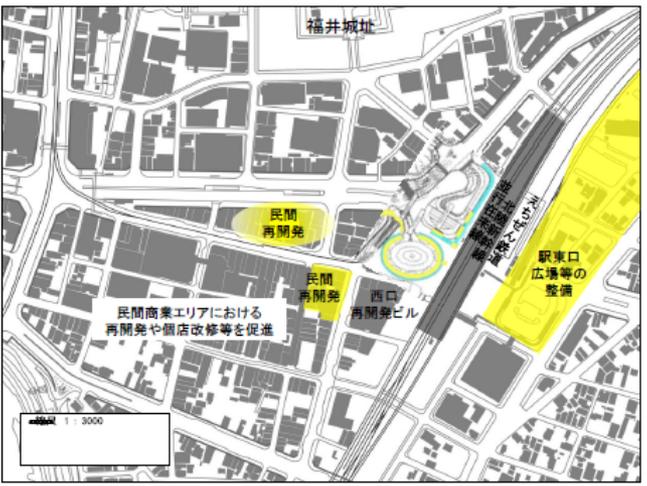
- ・「交通革新」によるネットワークの強化
- ・「都市の改造」と「ふるさと資産」

1-1(1) 福井駅および駅周辺のまちづくり

主体	県・福井市・民間	場所	福井市
事業費	約148億円～	期間	～H30

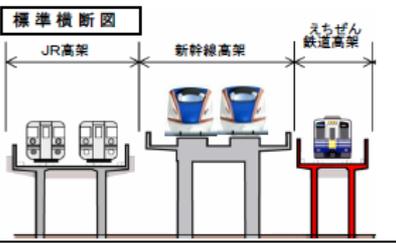
これまでの成果	平成28年度以降の予定	開業までに実現を目指す施策
<ul style="list-style-type: none"> ・駅西口広場、再開発ビルの整備(市、H27) ・自然史博物館分館(プラネタリウム等)の整備(福井市、H27) ・えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗入れ(民間、H27～) ・福井鉄道福武線福井駅前線の延伸(民間、H27) 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅舎デザインのコンセプト提案(市、H28) ・駅東口広場等の整備(市、～H30) ・えちぜん鉄道の高架化(県、～H30) ・個店の改修等への支援(県・市、～H29) ・福井駅・城址周辺地区での再開発(民間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間による新幹線高架下の有効活用 ・公共施設の再配置等による市中心部への都市機能の再集約 ・民間の再開発事業にあわせた歩行者と鉄道が共存できる空間や市内循環鉄道の整備の検討

駅西口広場や西口再開発ビル整備に続き、えちぜん鉄道の高架化など、新幹線延伸に向けて福井駅周辺を整備します。また、老朽化ビルの更新やリノベーションへの民間投資を促進し、県都の賑わいづくりを推進します。



出所 福井県作成、福井市提供 ※区域は概ねの位置を示したものと

- 28年度実施事業【福井県】
 - ・えちぜん鉄道高架工事(H24～H30) (福井駅付近連続立体交差事業 6,640,600千円)
 - ・福井市が行う駅東口広場等の整備支援 (福井駅周辺土地地区画整理支援事業 46,227千円)
 - ・個店の改修等の支援 (おもてなし商業エリア創出事業 99,381千円の内数)
- 28年度実施事業【福井市】
 - ・優良建築物等の整備支援、駅東口広場等の整備 (優良建築物等整備支援事業 889,400千円)
 - ・福井駅周辺土地地区画整理事業 937,577千円



新幹線開業対策
福井駅および駅周辺のまちづくり
(福井県高速交通開通アクション・プログラムより)